財団法人 日本ハンドボール協会編　平成24年 10月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻530号

ハンドボール

特集
第63回全日本高校選手権大会
第25回全国小学生大会
第17回ジャパンオープントーナメント

OCT.2012・No.530

［表紙写真:全日本高校選手権大会女子優勝·高松商業の久原祐希選手:写真提供·スポーツイベント社］

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

今、審判部が取組むこと

（財）日本ハンドボール協会常務理事・審判長　**藤井 俊朗**

日本協会役員任期の途中ではありますが、本年６月から植村彰前審判部長の後任となりました。今までお世話になった感謝の気持ちと、少しでも恩返しができるよう、関係者ならびに関係機関との情報交換、情報の共有、そして連携を大切にし、精一杯務めさせていただきたいと思います。

本年度、審判部の重点施策は次のとおりです。

1．**組織の活性化を図る**……各委員会の活性化を図るため、事業内容を見直し、計画的な取組みを実践するための目標設定を行う。
各ブロック審判長・都道府県審判長の指導力向上と指導体系の確立を図り、全国各地のレフェリーに判定基準と正しい運用方法が浸透するよう指導を行う。それを踏まえ各全国大会においても、日本協会主催大会は日本協会審判長が、各連盟主催大会では連盟審判長が、それぞれのカテゴリーに相応しい運用に関して指導を行う。

2．**レフェリーアカデミーの推進**……JHAレフェリーコース、A/B級審査会、全日本学生連盟などとの連携と体系化を図る。

3．**トップレフェリーの資質向上および育成**……国内トップレフェリーの高齢化が進む中、次代を担う若く優秀なレフェリーの育成は急務であり、全国大会や日本リーグを担当できるレフェリーを育成する。

4．**競技規則の正しい運用**……講習会の内容を充実させるとともに、競技規則の正しい運用を目指し、『審判員の目標』の徹底と、国際事情の分析および伝達を迅速に行う。さらに競技本部とのタイアップにより、講習会に指導者やプレーヤーの参加を働きかけ相互理解を目指す。

5．**IHFレフェリー講習会への参加**……強化本部との連携によりIHF/AHFレフェリーの育成に併せ、国内レフェリーにも最新の国際情報を提供する。

全国のレフェリーの皆さん

レフェリーは常に周囲から注目されています。特に、笛を鳴らしたときには、すべての人の視線がレフェリーに注がれます。キャリアを積んだレフェリーになればなるほど、その度合いは強まります。そのような雰囲気の中でレフェリーが浮足立ったり、ゲームに乗り遅れたり、また逆に、余りにも張り切り過ぎて、ついつい独りよがりな笛になってしまってレフェリーだけが浮いてしまったことはないでしょうか。

レフェリーには、それぞれの個性やハンドボール観があります。それらはレフェリーとしての大切な要素でもありますが、競技規則ならびにレフェリングに関する指導の内容から外れないように表現されなければなりません。さらには、レフェリーの個性やハンドボール観ばかりが先行する主観ではなく、妥当性や信頼性のある判定ならびに運用をしなければならないと考えます。

もちろんレフェリーはプロフェッショナルではありません。吹き損じや失敗もあるでしょう。しかし、「いつもは一緒に吹いていないから」「仕事が忙しくて準備不足だから」というのは言い訳になりません。チームやプレーヤーは常に厳しいトレーニングを積んでいることを決して忘れてはなりません。大会の担当が決まれば、たとえそれが都道府県大会であろうが全国大会であろうが、小学生であろうが社会人であろうが、大会に向けてレフェリーとしての準備を怠ることなく、そして大会期間に入ったら、会場入りしたら、あるいはコートに立ったら、レフェリーとしてのプロ意識を持って始めから終わりまで丁寧にそして誠実に…。

大会を取り巻くすべての人から「そのとおり！」「それが正しい！」と言われるような判定や競技運営を心掛けるとともに、レフェリーとして相応しい行動や言動にも心配りをお願いいたします。

『強化と審判は目的を達成するための両輪』と言われて久しくなりますが、双方の関係が常に密接であることを念頭に、ハンドボール競技発展のために取り組んでいきたいと思いますので、御協力を賜りますようお願いいたします。

第30回オリンピック競技大会（2012／ロンドン）

男子：フランス　女子：ノルウェー　連覇で金メダル

ロンドンオリンピック（第30回夏季オリンピック）は、2012年7月27日から8月12日までイギリスのロンドンで開催された。204の国と地域から約11,000人が参加し、実質19日間（開会式に先立ち男女サッカーの一部試合が行われた2日間を含む）に26競技302種目が実施された。

ハンドボール競技は、男女それぞれ12カ国が参加、2グループに分け上位4カ国が準々決勝以降の決勝トーナメントに進んだ。8月11日に女子決勝が行われ、北京五輪金メダルのノルウェーがモンテネグロを26対23で下し、連覇を果たした。又、3位決定戦ではスペインが韓国を延長戦の末、31対29で破り、銅メダルを獲得した。

翌日12日には男子決勝が行われ、北京五輪金メダルのフランスがスウェーデンに22対21で競り勝ち、北京大会に続く連覇を果たした。3位決定戦ではクロアチアがハンガリーを33対26で下し、銅メダルを獲得した。

予選リーグ星取表

【男子】

グループA		ISL	FRA	SWE	TUN	ARG	GBR	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	アイスランド(ISL)		30○29	33○32	32○22	31○25	41○24	5	5-0-0	167	132	35	10
2位	フランス(FRA)	29●30		29○26	25○19	32○20	44○15	5	4-0-1	159	110	49	8
3位	スウェーデン(SWE)	32●33	26●29		28○21	29○13	41○19	5	3-0-2	156	115	41	6
4位	チュニジア(TUN)	22●32	19●25	21●28		25○23	34○17	5	2-0-3	121	125	-4	4
5位	アルゼンチン(ARG)	25●31	20●32	13●29	23●25		32○21	5	1-0-4	113	138	-25	2
6位	イギリス(GBR)	24●41	15●44	19●41	17●34	21●32		5	0-0-5	96	192	-96	0

グループB		CRO	DEN	ESP	HUN	SRB	KOR	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	クロアチア(CRO)		32○21	30○25	26○19	31○23	31○21	5	5-0-0	150	109	41	10
2位	デンマーク(DEN)	21●32		24○23	27○25	26○25	26○24	5	4-0-1	124	129	-5	8
3位	スペイン(ESP)	25●30	23●24		33○22	26○21	33○29	5	3-0-2	140	126	14	6
4位	ハンガリー(HUN)	19●26	25●27	22●33		26○23	22○19	5	2-0-3	114	128	-14	4
5位	セルビア(SRB)	23●31	25●26	21●26	23●26		28○22	5	1-0-4	120	131	-11	2
6位	韓国(KOR)	21●31	24●26	29●33	19●22	22●28		5	0-0-5	115	140	-25	0

【女子】

グループA		BRA	CRO	RUS	MNE	ANG	GBR	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	ブラジル(BRA)		24○23	27●31	27○25	29○26	30○17	5	4-0-1	137	122	15	8
2位	クロアチア(CRO)	23●24		30○28	27○26	28○23	37○14	5	4-0-1	145	115	30	8
3位	ロシア(RUS)	31○27	28●30		25△25	30○27	37○16	5	3-1-1	151	125	26	7
4位	モンテネグロ(MNE)	25●27	26●27	25△25		30○25	31○19	5	2-1-2	137	123	14	5
5位	アンゴラ(ANG)	26●29	23●28	27●30	25●30		31○25	5	1-0-4	132	142	-10	2
6位	イギリス(GBR)	17●30	14●37	16●37	19●31	25●31		5	0-0-5	91	166	-75	0

グループB		FRA	KOR	ESP	NOR	DEN	SWE	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	フランス(FRA)		24○21	18△18	24○23	30○24	29○17	5	4-1-0	125	103	22	9
2位	韓国(KOR)	21●24		31○27	27△27	25○24	32○28	5	3-1-1	136	130	6	7
3位	スペイン(ESP)	18△18	27●31		25○20	24○21	25○24	5	3-1-1	119	114	5	7
4位	ノルウェー(NOR)	23●24	27△27	20●25		24○23	24○21	5	2-1-2	118	120	-2	5
5位	デンマーク(DEN)	24●30	24●25	21●24	23●24		21○18	5	1-0-4	113	121	-8	2
6位	スウェーデン(SWE)	17●29	28●32	24●25	21●24	18●21		5	0-0-5	108	131	-23	0

決勝トーナメント表

【男子】

アイスランド(A1 位) 33
ハンガリー(B4 位) 34
スウェーデン(A3 位) 24
デンマーク(B2 位) 22
フランス(A2 位) 23
スペイン(B3 位) 22
チュニジア(A4 位) 23
クロアチア(B1 位) 25

ハンガリー 26 ― スウェーデン 27
フランス 25 ― クロアチア 22

スウェーデン 21 ― フランス 22

優勝
フランス

3位決定戦
ハンガリー(B4 位) 26
クロアチア(B1 位) 33

【女子】

3位決定戦
韓国(B2 位) 29
スペイン(B3 位) 31

最終順位

	男子	女子
優勝	フランス（FRA)	ノルウェー (NOR)
準優勝	スウェーデン（SWE)	モンテネグロ（MNE)
3 位	クロアチア（CRO)	スペイン（ESP)
4 位	ハンガリー（HUN)	韓国（KOR)
5 位	アイスランド（ISL)	フランス（FRA)
6 位	デンマーク (DEN)	ブラジル (BRA)
7 位	スペイン (ESP)	クロアチア（CRO)
8 位	チュニジア（TUN)	ロシア（RUS)
9 位	セルビア (SRB)	デンマーク（DEN)
10 位	アルゼンチン (SRG)	アンゴラ（ANG)
11 位	韓国 (KOR)	スウェーデン（SWE)
12 位	イギリス (GBR)	イギリス（GBR)

IHF は、この大会のオールスターチームを発表しました。

【男子】
左ウイング：Jonas Kallman (SWE)
ポスト：Julen Aguinagalde (ESP)
右ウイング：Ivan Cupic (CRO)
左バック：Aron Palmarsson (ISL)
センターバック：Nikola Karabatic (FRA)
右バック：Kim Andersson (SWE)
ゴールキーパー：Thierry Omeyer (FRA)

【女子】
左ウイング：Jo Hyobi (KOR)
ポスト：Heidi Loke (NOR)
右ウイング：Alexandra Nascimento (BRA)
左バック：Bojana Popovic (MNE)
オールラウンドバックコート：Marta Mangue (ESP)
右バック：Katarina Bulatovic (MNE)
ゴールキーパー：Kari Aalvik Grimsbo (NOR)

男子優勝のフランス

女子優勝のノルウェー

ロンドンオリンピック ハンドボール男子決勝を観戦して

左から、橋本参議院議員、市原令夫人、市原副会長

第30回オリンピック競技大会（2012／ロンドン）
日本選手団副団長
参議院議員　　橋本 聖子

第30回夏季大会となるオリンピック・ロンドン大会は7月27日に開幕、8月12日に閉幕しました。今大会は、近代オリンピックが1896年にアテネで始まって以来、30回目の記念すべき大会であり、日本選手団の副団長として参加し、選手をサポートできたことを嬉しく思います。

さて、義兄の髙橋辰夫（元衆議院議員・故人）が北海道ハンドボール協会の会長であったご縁で、このたび日本ハンドボール協会の顧問に就任いたしましたこと、大変光栄に思います。ロンドン大会終盤の8月12日、市原副会長のお声掛けでハンドボール男子決勝の観戦が実現しましたが、その試合内容の素晴らしさに深く感動いたしました。

決勝はフランス対スウェーデンの組み合わせでした。両チームともに攻守の切り替えが速く、ディフェンスから速攻で得点するというスタイルが同じであるため、互いにチャンスを確実にものにして得点を重ねるという手に汗握る接戦でした。いずれも持てる力を出し尽くした、内容の濃い試合でしたが、フランスがスウェーデンを22対21で破り、2連覇を達成しました。実力は拮抗していたかと思いますが、フランスはゴールキーパーの好プレーが目立ち、スウェーデンはシュートミスが何度かあり、それが勝敗を決したように感じました。

ハンドボールのスポーツとしての特徴は「格闘球技」と形容しても差し支えないほどの身体接触の激しさにあります。そして、その最大の魅力はなんといっても「走る、跳ぶ、投げる」といった身体動作のダイナミックさにあります。ボールを持った選手のドリブル・フェイント・シュートなどの力強い動きに驚嘆するだけでなく、人もボールもハイスピードで流れるように動くチーム・プレーの素晴らしさに胸が熱くなります。

本場欧州では、ハンドボールはサッカーに次ぐ人気を誇る国もありますが、日本ではマイナーなスポーツという印象があります。また欧米の選手との体格差が大きな壁となり、わが国はソウル大会以降出場できていません（女子の出場はモントリオール大会の1回のみ）。

今大会にわが国は293選手を送り込み、金メダルは目標の15個に届きませんでしたが、メダル総数は2004年のアテネ大会（37個）を上回る最多記録でした。過去最多の13競技でメダル獲得ができたことは、多くの競技でレベルの底上げが進んでいることを示しています。

また、今大会の日本選手団の特徴として団体種目における健闘が目立ちました。特にサッカーやバレーボールは、日本人選手の体の小ささが大きなハンディとなりますが、今大会では、チームワークと技術の高さ等、総合力でメダル獲得を果たしています。また、大健闘した競泳陣ですが、健闘を称えられたある選手が「27人のリレーだった」とコメントしていました。この言葉に感銘を受けた人は少なくなかったと思いますが、日本人は仲間を思いやり、チームで団結することによって、より大きな力を発揮することができる民族です。体格や基礎体力には限界がありますが、精神力や絆の力に限界はありません。ハンドボール競技においても、より技術を磨き、チームワークを高めれば、きっと大きく飛躍できるはずです。4年後のリオデジャネイロ大会には男子・女子ともに出場して、目覚ましい活躍ができると信じています。

最後になりましたが、今後は2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会の東京招致に取り組んでまいる所存です。スポーツの素晴らしさは、人々に夢と感動を届け、その気持ちを前向きにすることです。また、オリンピック・パラリンピックは国家の代表選手が出場することから国民の心をひとつにして、国を元気にする力があります。熱い感動を共有できるオリンピック・パラリンピックを東京で開催し、わが国の子ども達に是非見せてあげたいと考えております。皆様にはご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

公益財団法人日本オリンピック委員会理事
選手強化本部副本部長
財団法人日本スケート連盟会長
財団法人日本ハンドボール協会顧問

高松宮記念杯

第63回 全日本高等学校選手権大会

平成24年度全国高等学校総合体育大会

大会期間：平成24年7月28日（土）～8月3日（金）

写真提供：スポーツイベント社

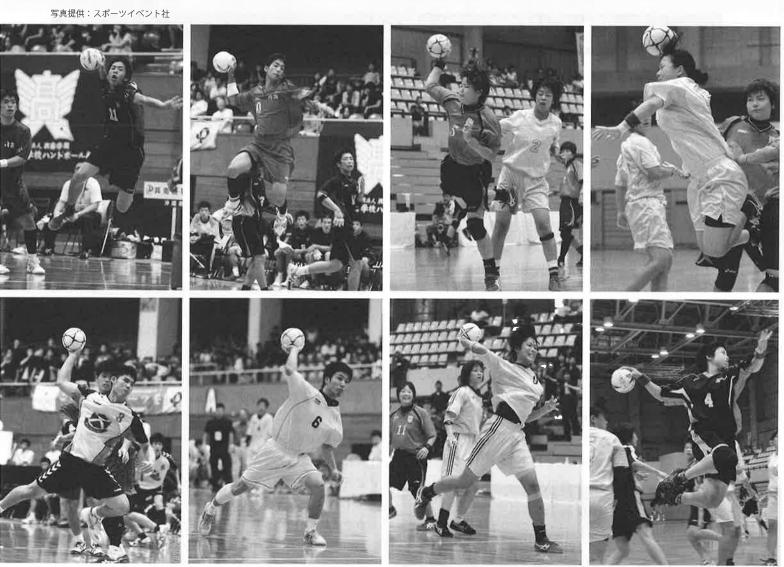
■最終順位

【男子】
優　勝：県立岩国工業（山口）
準優勝：興南（沖縄）
３　位：桃山学院（大阪）・瓊浦（長崎）

【女子】
優　勝：県立高松商業（香川）
準優勝：県立華陵（山口）
３　位：県立飛騨高山（岐阜）・四天王寺（大阪）

■優秀選手

【男子】川岡靖弘（岩国工業）　助安功成（岩国工業）　徳田新之介（岩国工業）
森木良太（岩国工業）　具志堅陽向（興南）　比嘉成希（興南）　松原優人（興南）
衣笠友貴（桃山学院）　田辺　悠（桃山学院）　久米純平（瓊浦）　澤井修人（瓊浦）
井上直紀（大分雄城台）　野中勇希（佐賀清和）　猪俣淳三郎（法政大二）　竹原信汰（国分）

【女子】谷　華花（高松商業）　長尾桃子（高松商業）　馬場敦子（高松商業）
内海菜保（高松商業）　松本ひかる（華陵）　岩﨑成美（華陵）　山根紗恵（華陵）
中島沙里奈（飛騨高山）　奥堀妃永（飛騨高山）　永田美香（四天王寺）　松井優佳（四天王寺）
坂口ありさ（星城）　古賀美穂（洛北）　田中真理乃（佐世保西）　森口結衣（明石）

【男子優勝】県立岩国工業高校（山口）

岩国工業高校監督　倉谷 康彦

イギリス・ロンドンでは第30回オリンピックが開催され、日本中のスポーツ活動への関心が高まるなか、国内最大の高校生スポーツの祭典である平成24年度全国高等学校総合体育大会「2012北信越かがやき総体」が開催されました。大会の開催にご尽力いただきました新潟県協会、新潟県高体連専門部、柏崎市、上越市、刈羽村の皆さまをはじめ、多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。開会式で新潟県立新潟江南高校ハンドボール部白瀧拓実主将が、新潟県の県の鳥でもある朱鷺の雛が野生としては36年ぶりに誕生し、巣立ちを果たしたという明るいニュースを歓迎のことばで紹介してくれました。また出場選手に配られたトキめき新潟国体のマスコットキャラクター「トッキッキ」のカラーをモチーフにした手作りブレスレットの大会記念品も、高校生ボランティアによって作製されており、温かみを感じました。

3月末に行われた選抜大会では、準決勝で北陸高校に敗れ3位でした。その悔しさをバネにこの4ヶ月間、厳しい体力トレーニングと実践を想定した2対2、3対3などの部分練習を中心に行い、日々の練習を大切に取り組んできました。レギュラーには3年生は2人で、あとは2年生、1年生の若いチームでしたが、試合にでない3年生も意識を高く持ち、チーム一丸となって、「日本一」を目指しました。

大会前も相手チームを徹底的に研究し、大会に挑みました。初戦の湯沢高校、続く前年度優勝の小林秀峰高校、準々決勝の法政大学第二高校を制すことができたのも、チーム全員がインターハイの一戦一戦の重みを理解し、行動したことによるものだと思います。準決勝の対戦相手が瓊浦高校に決まり、練習試合でお互い手の内を知り尽くしているなか、さらにチームで徹底研究し、夕方、想定練習を公園で行いました。試合中もベンチ全員がコートのメンバーをサポートし、前半12対6で折り返し、後半追い上げられながらも何とか逃げ切り、27年ぶりに決勝に進むことができました。岩国工業高校ハンドボール部の64年間で、第26回、第29回、第36回と過去3回決勝に進出し、3回とも涙を流しています。OBを含め、インターハイ優勝は「岩工の悲願」でした。

決勝戦は過去インターハイ4回の優勝を誇る興南高校との対戦でした。立ち上がりに3連取され、突き放されるところを何とか耐え、徐々にOF、DFともに機能し始めました。前半14分からエース徳田を中心に5連取で逆転し、その後得点を重ね、前半19対15で折り返し、主導権を握り返すことができました。後半は、序盤に徐々に追いつかれ、2点差まで詰め寄られるものの、エース徳田のミドル、カットインシュート3連取で突き放しました。キャプテン助安を中心にベンチも一体になってよく声を出し、精神的、肉体的にも苦しい場面をチーム全員で踏ん張り、33対25で悲願の初優勝をすることができました。決勝戦はもちろん、全ての試合でお互いの持ち味を出した試合ができたことに感謝いたします。

最後に日頃よりご支援ご協力をたただいた県体育協会、県協会、県高体連専門部を始め、岩国工業高校ハンドボール部保護者、OB会、支えてくださった全ての皆様に心からお礼申し上げます。

【女子優勝】県立高松商業高校（香川）

高松商業高校ハンドボール部主将　福家 菜月

まず初めに、高松宮記念杯第63回全国高等学校選手権大会におきまして、ご支援、ご協力いただきました県体育協会、県高体連専門部を始め、大会の開催にご尽力いただきました関係各位の皆様に深くお礼申し上げます。有り難うございました。

新チームになっての最初の全国大会では一回戦敗退という結果で終わり、自分達の力のなさを痛感すると共に全国大会のレベルの高さを改めて感じました。このままの自分達の力や取り組み方、考え方では日本一という目標は達成できないと考え直して日々練習に取り組みました。このチームは、身体の小さい選手が多いためDFを堅めて、全員で走ることを徹底してきました。自分達がやってきた事がどのぐらい全国で通用するのか、期待と不安を抱え今大会を迎えました。

今大会の三回戦では、昨年敗れた相手に対して接戦の末、勝利を収めることができました。そこから目標達成に向けてもう一度全員で気持ちを引き締め、準々決勝に挑みました。準決勝、決勝では力のあるチームに対して自分達のスタイルである「守って速攻」を貫くことができました。春の選抜大会から５ヶ月間、自分達が練習してきた事が全国大会で表現できたことを大変嬉しく思いました。このチームの課題でもあった出だしの悪さも、試合を重ねるごとに克服していったように思います。決勝戦の前半では自分達で流れをつくり、練習してきた事が表現できました。後半は、相手DFに攻め苦しみ、ミスも出ましたが追い上げられながらもなんとか逃げ切ることができました。自分達が目標としていた日本一を達成したとき、今までやってきたことが結果として表れ本当に嬉しく思いました。

高松商業が優勝したのは初めてですが、このような結果を得られたのは先輩方がコツコツと伝統を積み重ねてきてくださったおかげだと思っています。また、自分達に練習ができる環境を快く与えてくださった株式会社マキタの皆様、高松大学の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。有り難うございました。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有り難うございました。

高松宮記念杯　第63回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子の部

優勝・県立岩国工業（山口県）初優勝

決勝 25 - 33

北陸高校（福井）
桃山学院高校（大阪）
熊本国府高校（熊本）
県立江津高校（島根）
市川高校（千葉）
聖和学園高校（宮城）
県立富岡高校（群馬）
県立呉工業高校（広島）
県立大分雄城台高校（大分）
県立香川中央高校（香川）
高山西高校（岐阜）
県立氷見高校（富山）
県立福島工業高校（福島）
國學院大學栃木高校（栃木）
府立洛北高校（京都）
県立鳴門高校（徳島）
県立柏崎工業高校（新潟）
興南高校（沖縄）
県立北村山高校（山形）
県立紀北農芸高校（和歌山）
県立総社高校（岡山）
佐賀清和高校（佐賀）
春日丘高校（愛知）
県立藤代紫水高校（茨城）

県立岩国工業高校（山口）
県立湯沢高校（秋田）
近江兄弟社高校（滋賀）
明星高校（東京）
県立四日市工業高校（三重）
県立小林秀峰高校（宮崎）
法政大学第二高校（神奈川）
土佐高校（高知）
県立三本木高校（青森）
奈良市立一条高校（奈良）
県立長岡大手高校（開催地）
祐誠高校（福岡）
県立国分高校（鹿児島）
県立松山工業高校（愛媛）
駿台甲府高校（山梨）
県屋代高校（長野）
県立境高校（鳥取）
北海道札幌月寒高校（北海道）
瓊浦高校（長崎）
県立小松明峰高校（石川）
県立御殿場高校（静岡）
神戸国際大学附属高校（兵庫）
浦和学院高校（埼玉）
県立不来方高校（岩手）

高松宮記念杯　第63回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

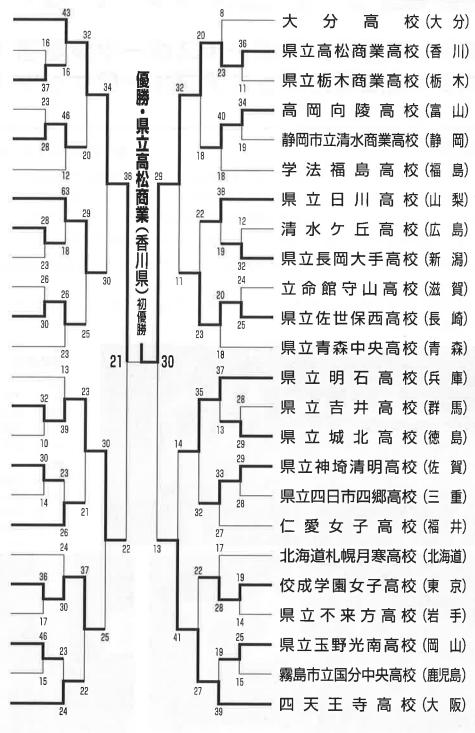
女子の部

優勝・県立高松商業（香川県）初優勝

決勝　21－30

左ブロック	右ブロック
県立華陵高校（山口）	大分高校（大分）
県立巻高校（開催地）	県立高松商業高校（香川）
日本大学山形高校（山形）	県立栃木商業高校（栃木）
宮崎学園高校（宮崎）	高岡向陵高校（富山）
浦和実業学園高校（埼玉）	静岡市立清水商業高校（静岡）
土佐高校（高知）	学法福島高校（福島）
星城高校（愛知）	県立日川高校（山梨）
県立添上高校（奈良）	清水ケ丘高校（広島）
県長野南高校（長野）	県立長岡大手高校（新潟）
県立湯沢高校（秋田）	立命館守山高校（滋賀）
県立陽明高校（沖縄）	県立佐世保西高校（長崎）
横浜創英高校（神奈川）	県立青森中央高校（青森）
県立境高校（鳥取）	県立明石高校（兵庫）
県立飛騨高山高校（岐阜）	県立吉井高校（群馬）
聖和学園高校（宮城）	県立城北高校（徳島）
熊本国府高校（熊本）	県立神埼清明高校（佐賀）
県立和歌山商業高校（和歌山）	県立四日市四郷高校（三重）
県立水海道第二高校（茨城）	仁愛女子高校（福井）
筑紫女学園高校（福岡）	北海道札幌月寒高校（北海道）
府立洛北高校（京都）	佼成学園女子高校（東京）
県立今治東中等教育学校（愛媛）	県立不来方高校（岩手）
昭和学院高校（千葉）	県立玉野光南高校（岡山）
松江市立女子高校（島根）	霧島市立国分中央高校（鹿児島）
小松市立高校（石川）	四天王寺高校（大阪）

第25回 全国小学生ハンドボール大会

大会期間：平成24年8月2日（木）～5日（日）

男子：下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）
女子：北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井県） が優勝！

総評

（財）日本ハンドボール協会小学生委員長　山本　繁

8月2日（木）から5日（日）まで、今年も京田辺市において「第25回全国小学生ハンドボール大会」が開催されました。今年で25回目、四半世紀25年の伝統ある大会となりました。参加都道府県も過去最多となり、鳥取県と高知県の仲間が新たに加わりました。レフェリーも日本協会審判部が担当するようになって3年、よりクリーンなプレーが多くなってきました。

また、勝ち残るチームのほとんどが、NTSが提案している、①積極的なディフェンス、②1対1を積極的に抜きに行くオフェンス、を実践していました。なによりも素早いパスキャッチやシュートにミスが少なく、基礎基本がしっかり身についていることに感服しました。

優勝は、男子が下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）で3度目、女子は北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井県）が初優勝しました。

最終順位

■男子

優　勝：下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）
準優勝：窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山県）
3　位：神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）
4　位：松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（開催地）

■女子

優　勝：北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井県）
準優勝：湊川ハンドボールクラブ（沖縄県）
3　位：平針南ハンドボールクラブ（愛知県）
4　位：松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（京都府）

男子優勝：下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）

「チームワークで勝ち取った勝利」

下郡ハンドボールスポーツ少年団監督　古谷 裕邦

一昨年の悪夢のようなワンスローでの敗戦から２年。今回の大会でようやくその時の忘れものを取り返せたような気がしています。今年の優勝は昨年５年生でベスト８に入った時から意識はしていました。しかし絶対的なエースがいないため勝てるとも思ってはいませんでした。案の定、優勝までの道のりは決して楽ではありませんでした。１試合目こそ下郡本来の動きができたものの、全国前に故障した子どもの回復が今ひとつで、２試合目、３試合目と苦しいゲームが続きました。その中で子どもたちはDFで粘りに粘りました。

準決勝の神森小とは創団以来勝ったり負けたりする九州のライバルです。僅差の勝負になるだろうと思っていました。試合は予想通り「しのぎあい」でした。先行しては追いつかれ、追いつかれては引き離し、一進一退の攻防が続きました。ただ私にあせりはありませんでした。練習はうそをつかないと思っていました。「負けるならそれは相手がより上の練習をしたのだから仕方ない…。勝つときは勝つ。負けるときは負ける。ハンドの神様は今年の頑張りを見てくれている」と思っていたからです。結果は１点差勝ち。どちらに転んでもおかしくない試合だっただけにその喜びはひとしおでした。決勝戦はサイドが決められなくて試合がもつれました。相手のエースにも苦しめられました。しかし、この試合も１点差勝ち。２試合続けて１点差の勝利には本当に神がかったものを感じました。そして「一昨年の１点をこの大会で２回も返してもらった。ハンドの神様は本当にいるな」そんな気持ちで大会を終えました。

今、大会を振り返ってみて今年は総合力とチームワークで勝てた気がします。スーパーエースはいませんが、どこからでも誰からでも得点がとれる強みがありました。その強みをいかんなく発揮したことが優勝につながったと思います。そして全国制覇目指して必死で努力した子どもたちと、自分のことのように真剣に練習に取り組んでくれた３人のコーチに心から感謝します。また今回の優勝は保護者のみなさんの献身的な協力があったからこそなしえたものだとも思っています。急な日程変更や練習後の子どもたちへの私の長い説教を文句も言わずに待ってくれたり、新しいユニフォーム作りに前向きに尽力してくれたり、その支えがあったからこそ全国の舞台で子どもたちが輝くことができたのです。ここまで協力してくれた全てのみなさんに心から感謝します。これからも選手・指導者・保護者が一丸となって頑張っていければと思っています。

最後に今年もすばらしい大会運営と、子どもによい経験をさせて下さった京都協会のみなさんに心から感謝申し上げます。来年も是非この舞台に戻って来れるよう頑張ります。本当にありがとうございました。

女子優勝：北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井県）

夢はかなう！

北陸電力ジュニア・ブルーロケッツ女子監督　仲野 数也

総監督兼男子監督の田中監督が「木田ブルーロケッツ2000」を創設して13年目。私が女子チームに携わって9年目で、初めて全国優勝できました。

昨年8月に日本リーグ加盟チームのジュニアチームとして「北陸電力ジュニア・ブルーロケッツ」にチーム名を変更、新たにスタートを切って初めての全国大会で優勝できるとは思ってもいませんでした。

女子チームは過去5回、全国大会に出場しましたが、最高でベスト8と悔しい思いをしてきましたので、今年こそは「最終日に試合をするぞ！」を目標にチームスタッフと選手全員がひとつになってがんばってきました。

しかし、大会までの道のりは厳しいものでした。全国大会前に一人しかいないキーパーが膝を故障、キーパー不在となってしまいました。控え選手もあまりいない中で、悩んだ結果、ハンドボールを始めて1ヶ月の6年生をキーパーにと覚悟を決め、「やってくれないか？」と伝えました。その選手は「やってみる」と返事をしてくれて、それから一所懸命、練習に励んでくれました。このことで、選手全員がキーパーのためにディフェンスをがんばらなければという気持ちが強まり、チームがより強く団結しました。

全国大会の予選トーナメントでは、あせらず一点ずつ決めること、平常心でプレーすることを伝え、選手はそのとおりやってくれて決勝トーナメントにすすむことができました。決勝トーナメント一回戦は、富山県代表の窪スポーツ少年団。

5年前に決勝トーナメントで敗れており、今回こそは勝利して最終日にどうしてもいきたい。その思いは選手の方が強く、のびのびとプレーをして勝利し、念願の最終日に試合ができることになりました。

最終日前日のミーティングで、明日の試合は、勝利して京田辺中央体育館でもう1試合しようと伝えたところ、「もちろん勝ちにいく！」と返ってきたときはびっくりさせられましたし、試合ごとに選手全員が成長し強くなったと感じさせられました。

準決勝は地元の松井ケ丘小学校との対戦、前半は緊張からかシュートが入らず苦戦しましたが、一点差で逃げ切り、決勝に進むことができました。

初めての決勝戦は沖縄県代表の港川ハンドボールクラブとの対戦となり、試合前には、シュートを決めたらガッツポーズ、1本守ったらナイスデェフェンスと「悔いのないように試合を楽しもう！」と選手に声をかけました。選手は私以上に試合を楽しんでいたようでしたし、本当に楽しかった夢のような30分間でした。試合終了と同時に、またこの場所で戦いたいという新たな夢ができました。

最後に全国大会出場にあたり、ご支援いただいた福井県ハンドボール協会関係者や父母会のみなさま、地元企業の方々には大変感謝しております。また、大会運営に関わったみなさまにも感謝とお礼申し上げます。ありがとうございました。

第17回

大会期間　男子の部：平成24年8月10日（金）～8月13日（月）
　　　　　女子の部：平成24年8月10日（金）～8月12日（日）

ジャパンオープンハンドボールトーナメント

■最終順位

男子：優勝：Honda（三重県）　2位：長崎社中（長崎県）　3位：HC岐阜（岐阜県）　4位：FST（東京都）

女子：優勝：香川銀行T・H（香川県）　2位：HC高山（岐阜県）　3位：徳山クラブ（山口県）　4位：京都クラブ（京都府）

総　評

東京都ハンドボール協会・理事長　樋口道夫

スポーツ祭東京2013第68回国民体育大会のリハーサル大会として実施した第17回ジャパンオープンハンドボールトーナメントは、次年度開催の東京国体5会場（墨田区総合体育館、新宿区立新宿スポーツセンター、品川区立総合体育館、武蔵村山市総合体育館、多摩市立総合体育館）で熱戦を繰り広げた。各ブロック予選を勝ち上がった男子32チーム、女子16チームは、都区内の3会場で男子を、多摩地区の2会場で女子の試合を行なった。

男子は緒戦より見応えのある試合が展開され、開催地のファンを堪能させてくれた。接戦を勝ち抜いたベスト8には、関東勢が4チーム入ったことは特筆されよう。さらに、ベスト4には国体を控えた都県チームが3つ入ったことは、それぞれの県の強化が進んでいることを示していると思われる。3位決定戦は本年度国体開催県のHC岐阜vsFST（地元・東京）、後半まで一進一退のゲーム展開が続き最後はHC岐阜がFSTを突き放しての勝利。決勝戦は3年連続同じ組合せとなり、Hondaの3連覇か長崎社中の初優勝か、ともに興味深い熱戦であった。前半にHondaが王者の貫禄で5点差で折り返すも、後半長崎社中は素晴らしい粘りで20分には1点差まで詰め寄り会場を沸かせたが、最後は試合巧者のHondaが23対20で見事に3連覇を達成した。

一方の女子は群を抜く香川銀行T・Hの6連覇か、他チームがどこまで迫るかと期待された。香川銀行T・Hは初戦鹿児島のninfa・kagoshimaに善戦を許すも、準決勝までは横綱相撲といった展開で勝ちあがる。昨年の決勝相手のHC高山も危なげなく順当に勝ちあがり、決勝戦は男子同様昨年と同じ対戦となった。本年度国体開催地のHC高山はこの大会決勝戦のために十分な準備をしてきたことが窺え、前半立ち上がりはHC高山リードの展開が進む。一進一退の攻防で全日本総合の準決勝を思い起こすようなレベルの高い好ゲームを見せてくれるなか、前半は香川3点のリードで折り返す。香川銀行T・Hは、後半も追いすがるHC高山に追い上げを許さず見事に6連覇を達成した。

優勝した男女両チームには優勝杯等のほかに開催地自治体から副賞が贈られた。男子はスカイツリーのお膝元らしくスカイツリーグラスと東京サイダーの詰め合わせが、女子にはご当地キティちゃんと村山うどんが贈られた。

社会人チームは仕事との両立という試練を課されるなか、ご参加いただいたすべてのチームの今大会のご活躍に拍手を送り、次年度は国内全てのブロックから代表が参加されることを願いたい。

今大会は記録的な猛暑の中実施をしたが、冷房設備のない会場では選手は大変な思いをされたのではないかと思う。レンタルの冷房機を4器取り付けた会場も汗での中断が相次いだ。今後、夏季の大会運営では空調が必須アイテムになるのではないだろうか。

今回は来年の本国体に備え、そのリハーサルを兼ねさせていただいた。運営面では至らない点が多々あったが、来年に向けてそれらを是正して準備を進めていきたいと考えている。来年の国体に参加される選手の皆様を心より歓迎できるよう頑張りたいと思います。

最後に大会を開催するに当たり多大な協力・協賛をいただいた皆様、またお世話になりました（財）日本ハンドボール協会、開催区市と実行委員会の皆様、ボランティアの皆様そして何より応援にかけつけていただいたファンの皆様方に心より感謝申し上げます。

男子優勝 Honda（三重県）

ジャパンオープンを終えて

Hondaハンドボール部　髙見 敏伸

今大会で３回目の出場となったジャパンオープン。今年もジャパンオープン本選出場と年末に行われる『全日本総合選手権大会』の出場権を得る為、県予選までは順当に勝ち進んだが、東海予選でHC岐阜に敗戦し２位通過で本選出場となった今大会。今年も優勝（３連覇）を目標に大会入りしました。

本選では、１・２回戦はチーム全員がコートに立ち、プレーをする事が出来ました。今年は一昨年から取り組んできたアタッキングなDFから、確率を求め6-0DFで臨みました。初めての公式戦での6-0DF、コンビネーションの乱れもありましたが、その都度チーム内で微調整を行い、精度を上げたDFに改善し失点を少なく抑える事が出来ました。

準々決勝では、チーム群馬との対戦でした。前半は一進一退の攻防を繰り返していましたが、後半に入り最大６点のリードがつきました。しかし、連続退場をきっかけに２点差まで追い上げられましたが、GKの好セーブと最後の踏ん張りを見せて僅差で勝利し準決勝へ駒を進めることが出来ました。

準決勝では、昨年と同カードのHC岐阜との対戦でした。東海予選での借りを返すべく臨んだ試合でした。前半から6-0DFが機能しシュートブロックとGKの好セーブもあり失点は少なく抑える事が出来ましたが、逆にその好機を生かせず前半は３点差で折り返す展開になりました。後半に入ってからはOFが安定し最大７点差まで広げる事が出来て、そのまま優位に試合を展開していき決勝に進出する事が出来ました。

決勝も昨年と同カードの長崎社中との対戦でした。前半GKの好セーブにより５点差で前半を折り返します。後半に入ると開始早々連続得点を許し３点差まで詰められ、そこから一進一退の攻防が続き後半残り10分で１点差まで縮められるがその後の大事な場面でシュートを決め、３点差で勝利しました。

今回で３連覇を達成し年末に行われます『全日本総合選手権大会』への出場権を獲得する事が出来ました。

今大会は、前回大会に続きチーム全員がコート上でプレー出来た事、また今期から始めた組織プレーを全員が理解し、コート上で表現し結果を出せた事が一番の収穫です。

今大会の経験を年末に行われます『全日本総合選手権大会』に繋げ、更なる進化を目指し強化を進めていき、目標にしていますベスト４進出を目指します。

最後になりますが、今大会までに練習試合をさせていただいた、各大学チーム関係者の方々と、審判やその周りでサポートしてくださった方に、誌面をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

女子優勝 香川銀行Ｔ・Ｈ（香川県）

ジャパンオープン６連覇を成し遂げて

香川銀行Ｔ・Ｈ副主将　鶴海 未季

昨年の主力選手３名が引退し、経験の浅い選手が多くなった中、今年のチームがスタートしました。今年のチームのテーマは「考動力：考えて動く・考えながら動く」相手の動きの変化に対してどんなプレーを選択すればよいのか、それをゲームの中で瞬時に判断することが今年の大きな課題となりました。それに加え、チームのカラーである「守って速攻」を徹底するため、個々の精神力・体力の強化に取り組んできました。

うまくできないことも多く、不安を覚えた時もありましたが、皆が知恵を出し合い、全員の気持ちをひとつに日々の練習に励みました。

そして迎えたジャパンオープン。６連覇という重圧からか、納得いくプレーがなかなかできず、課題を残しながらも臨んだ決勝戦。相手は昨年と同様、HC高山との対戦となりました。試合開始直前、「今まで練習してきたことを試合で出すこと」「守って速攻を徹底すること」そして「今まで先輩方が築きあげてきた歴史を絶やすことのないよう何が何でも勝つこと」という藤井キャプテンの言葉で私達のやるべきことを再確認し、ゲームに臨みました。序盤はなかなか得点に結びつけることができず、リズムに乗れない時間が続きます。20分を過ぎてようやく得点をリードすることができ、前半を10対７の３点差で折り返しました。後半に入り、チームカラーである「守って速攻」で得点を重ね、徐々にリードを広げリズムをつかみ始め

ました。ゲーム終盤、ミスから点差を縮められる場面もありましたが、24 対 18 で勝利を収めることができ、6 連覇を達成することができました。

今大会を通して、練習してきたことが発揮できた部分とそうでなかった部分がありましたが、全員の気持ちをひとつにして 6 連覇を達成できたことは、私達の自信に繋がりました。今大会での課題を克服し、今後の国体や全日本総合選手権に練習した成果を発揮していきます。

最後になりましたが、香川銀行をはじめ香川県ハンドボール協会、OB・OG の方々、両親、チームを応援してくださっている大勢の皆様のお陰でこの 6 連覇があるのだと心から感謝しております。これからも日々成長していけるよう頑張っていきますので、更なる応援をよろしくお願いいたします。

戦　評

【男子】

▼ 3 位決定戦

HC 岐阜　25（13 - 12，12 - 8）20　FST

前半 FST はディフェンスからの速攻と 19 番生川選手のミドルシュートで得点を重ね、HC 岐阜はダブルポストを利用したセットプレーで得点していった。スローペースな展開が続き同点のまま前半 20 分過ぎ、HC 岐阜は FST19 番生川選手に高めディフェンスをつけた。それにより FST の得点力が少し落ち HC 岐阜の 1 点リードで前半終了。

後半開始直後 HC 岐阜がリズムをあげ、対応できずにいる FST に 4 点差をつけた。後半 13 分には FST お得意の速攻で 2 点差に詰めるが、HC 岐阜 GK 田平選手のファインセーブにより攻めきれない。その間に豊富な攻め手を持つ HC 岐阜がじりじりと点差を広げ、後半 28 分には 6 点差となった。そこから攻撃的なディフェンスと速攻で猛追を見せるが、時すでに遅く 5 点差で HC 岐阜の勝利となった。

▼決勝

Honda　23（13 - 8，10 - 12）20　長崎社中

開始早々、Honda11 番野嶋選手のステップシュートが決まるが、すぐに長崎社中 11 番三宅選手のロングが決まる。その後両チーム 2 点を加える。長崎社中は Honda1 番大畑選手のファインセーブに阻まれ 5 点差まで引き離される。長崎社中は Honda の固いセットディフェンスを攻めあぐねるも、速攻から得点を重ねる。一方 Honda はセットプレーからのロングシュート、要所でのポストプレーにより得点差を 6 点まで広げる。前半終了間際、長崎社中は巧みなパス回しからのスカイプレーにより得点し、13 対 8 の 5 点差につめて前半を終える。

後半始めに長崎社中 8 番竹田選手の連続得点で差を 3 点まで詰める。後半 8 分に Honda8 番伊藤選手の 2 分間退場により長崎社中は数的優位になるも、Honda19 番鶴見選手のサイドからのスピンシュートにより差を縮めることが出来ない。後半 20 分に速攻から長崎社中 9 番小川選手の連続得点により 1 点差となる。長崎社中の猛攻も Honda の堅い守備とサイド・ポストプレーにより 23 対 20 で Honda の優勝で終わる。

【女子】

▼ 3 位決定戦

徳山クラブ　23（11 - 10，12 - 8）18　京都クラブ

徳山クラブのスローオフにて始まるが、両チーム重い立ち上がりとなり、両エースのロングシュートも枠を外すが点の取り合いとなる序盤を迎える。点が開いたのは前半の 15 分過ぎ、徳山クラブ 8 番中倉の速攻を機に林、新宮と連続得点をしセットプレーにも落着きを取り戻す。一方の京都クラブも 5 番上村のパスカットから亀山、岩田により連続得点をしチームペースを取り戻すが、両チームの持ち味を出せぬまま前半を終える。

後半の立ち上がり、京都クラブ 7 番鐘ヶ江のコンパクトなステップシュート、ミドルシュートと 2 連続得点にて同点としシーソーゲームとなる。後半 15 分過ぎ徳山クラブ 7 番エース小松のロングシュートにより 2 点リードとする。京都クラブは速攻、サイドシュート等粘り強く点を重ねる。20 分過ぎ、徳山クラブの 6 番佐伯の投入によりエース小松のロングシュートもひと際決まりだす。また、佐伯自身も味の有るロングシュートを決めチームを 3 位へと導く。

▼決勝

香川銀行 T・H　24（10 - 7，14 - 11）18　HC 高山

HC 高山のスローオフで試合が始まる。開始早々 HC 高山 9 番宮ノ腰のディフェンス突破から 2 点先取。香川銀行 TH の堅い守りから相手のパスミスを誘い、素早い攻撃にてすかさず同点とするが、HC 高山の持ち味である速攻で 2 点差とし両チーム一進一退の攻防戦が HC 高山のリードで 20 分過ぎまで続く。前半終盤に香川銀行 TH 9 番藤井のロングシュートにてこの試合初めてリードし、速攻と終了間際 7m スローを 7 番筑後が決め 3 点差とし前半を終える。

後半開始早々、香川銀行 TH 9 番藤井、14 番太田の連続得点で始まる。両チーム後半も衰える事無く、堅いディフェンス、速い攻撃の中、ミスの少ない香川銀行 TH が着実に点を重ねゲームの流れを導こうとするが、4 連続のノーマークシュートを決めきれず中盤へと進む中、HC 高山 5 番池之端が退場となり一人少ない中、香川銀行 TH はすかさず点を取りに行く。その後 HC 高山も粘り強く点を重ねるが、決勝に相応しく両チーム攻守共に勝るものが有りミスの少ないチームが勝者となった。

第20回全日本マスターズハンドボール大会を終えて

大会本部長（HC名古屋ATF）　古澤辰郎

第20回の記念すべき全日本マスターズハンドボール大会が、発祥の地豊田市で、8月3日から5日まで、猛暑の中開催されました。今年は北海道からの参加もあり、北は北海道から南は沖縄まで、全国から男女あわせて史上最高の80チームの参加がありました。

大会1日目は、小山哲央氏の御尽力で、名古屋グランパスエイトの本拠地である、豊田スタジアムを借用することができ、11人制を当スタジアムで行いました。しかし使用できる時間に制限（2時間）があり、参加希望チームの単独対戦は不可能で、1チーム20名ほどの合同チームを6チーム編成しました。1チーム最低2ゲームは出来るように組み合わせ、最高に管理された芝生の上で、11人制の経験者に未経験者も混ざり熱戦を繰り広げました。午後5時からはスカイホール豊田にて1チーム2名参加の開会式が行われました。席上、20回大会記念事業の一環として、協賛企業9社と1団体に感謝状が贈呈されました。

2日目には、スカイホール豊田・豊田市運動公園体育館・西部体育館・高岡公園体育館の4会場、8コートを使ってゲームが行われました。スカイホールは冷房が完備され快適な会場でしたが、他の会場は扇風機のみで、各チームは暑さとも戦わなければならず大変でした。夜は、恒例の懇親会があり、550名余の参加で大いに盛り上がりました。一年ぶりの再会を喜び、旧知のハンドボーラーとの話に花が咲き、2時間があっという間に過ぎ、明日のゲームの健闘と来年の再会を約束し、三々五々宿舎へと別れました。なお宴会に先立ち、80歳表彰で前田勝氏（東京都社会人連盟）が賞状を受けられました。また、20回連続出場の瀬戸レディース・HC名古屋ATF・HC名古屋中部ドリームズの表彰があり、さらに10回出場の海自桜錨会・スマイルGifuの表彰がありました。また今回初出場のG・G北海道を始め7チームの紹介もあり、女子チームの余興が花を添えました。

大会3日目も、各会場において熱戦が繰り広げられ、スカイホールでの順位決定型の決勝戦を最後に、午後1時からの閉会式で3日間の幕を閉じました。

期間中、アキレス腱断裂が4名、鎖骨骨折が1名、小指骨折が1名、その他柔道整復師にお世話になった選手が多数いました。中高年のハンドボーラー900余名がプレーした結果としては、故障者はゼロが望ましいのですが、仕方ない数字かと思います。

終わりに、本大会を準備し運営するに当たって、HC名古屋の皆さん、とりわけ会場責任者として滞りなく大会を進めていただいた若手会員の皆さんに、お礼を申し上げたいと思います。また、記録員として、豊田市・体力再生教室の皆さん（60歳以上の方30名）と地元中学生の皆さん、ボランティアとしてサポート頂き有り難うございました。

来年は、みちのく花巻市での開催が決まりました。元気にまたお会いしましょう。

第20回全日本マスターズハンドボール大会ボランティアに参加して

HC名古屋ATF　岩下 祐司

大会委員長である小山先生の言葉を借りるなら私たち『マスターズ予備軍』ことHC名古屋のシニアクラスからのボランティア参加は第17回・18回に続き今回で三回目となります。第17回・18回の時、私は主会場であるスカイホール豊田以外のサブ会場の会場責任者を担っていましたが今回、3日間通して参加し11人制会場の豊田スタジアムと7人制のスカイホールの会場責任者を担当する事になりました。

大会1日目には、豊田スタジアムで11人制が開催されましたが、私自身は11人制の経験はもちろんありませんし、豊田スタジアムの中に入るのも大会前の下見が初めてでした。

豊田スタジアムはJリーグ「名古屋グランパスエイト」のホームスタジアムであり、またFIFAクラブワールドカップの試合会場として使用する程の大変素晴らしい会場です。大会当日は、通常入る事の許されない　ロッカー・シャワールーム等を使用しサッカー選手が使用するベンチに腰掛け丁寧に整備された天然芝のピッチで試合をして頂きました。季節柄、熱中症も心配されましたが薄曇りの天気とスタジアムが太陽を遮りこの時期としては比較的やりやすい環境であったかと思います。後は4万5千人入るスタンドをどうやって埋めるかだけです。

大会2・3日目には、7人制を4会場8コートに分かれ、全118試合の熱戦を繰り広げて頂きました。今回、スカイホールには第18回に引き続き60歳以上の体力再生教室の方、他会場では豊田市内の中学校ハンドボール部員にオフィシャルを担当して頂きました。今回、大会の都合によりボランティア参加出来なかった中京大学体育会及び岡崎城西高校女子ハンドボール部の分まで助けて頂きました。ありがとうございました。

今回、補助役員を含めますと12歳～70代の方が大会運営に参加しました。これは家庭でいうと3世代にあたり、また学生・主婦・会社員・公務員・経営者・柔道整復師など多種多様な場で活躍されている方が構成しています。その環境が「不備・不手際」という大変有り難くない物も生みますが、「すべて参加者の手作りで」の基本理念には適っているのかなと思っています。いかに不備・不手際を減らしていけるかが再び豊田で開催する時の課題です。

来年は、岩手・花巻で開催されると伺っています。まだまだ「予備軍」を卒業する事のできない私は、どうやって岩手に行こうか算段中です。今回参加された皆さん、震災復興支援も兼ねて是非岩手に行きましょう。

60歳以上体力再生教室　山田 耕作

60歳以上の「体力再生教室」でご指導いただいている小山哲央先生から全日本マスターズハンドボール大会のボランティア募集の話を聞いたのは、6月中旬頃でした。何しろ、ハンドボールは経験もなく、ルールも知らず、生の試合を見たことも無かったし、又70歳を超える身で務まるのか心配でしたが、先生の「大丈夫だ」の一声で、手を挙げました。

7月22日、豊田市西部体育館で、本番と同じ試合形式の中で、得点記録、表示、警告、退場などのスコアラーとしての仕事と時間管理などの指導を受けました。3人一組で、役割を分担し任務に当たることになりましたが、幸い、酒井さん、村田さんと気心の知れた仲間とチームになり心強く感じました。

8月4日、酷暑の中、スカイホールに集合しました。10組30人が、ボランティアスタッフとして参加。担当の受け持ち試合が発表され、勇躍、それぞれのコートに散って行きました。試合中は、得点者の№は？　反則者の№は？　退場者のタイムは？　カード作成は？　など目ぐるましい展開で、試合はあっという間に終わった感じがしましたが、目がしょぼしょぼして、結構疲れました。それでも、予想以上の激しいぶつかり合いや、鮮やかなシュート、ゴールキーパーの見事なセーブなど、コート中を走り回る迫力に見入ってしまいました。

2日目も2試合担当し、閉会式にも出席して、豊田市で開催された記念の20回大会が成功裏に幕を閉じた事を、ささやかな一ボランティアとして大変嬉しく思いました。この大会に参加して、馴染みの無かったハンドボールを身近に見ることができ、この競技を少しでも理解できた事と、中高年の仲間達が、連携して一つの仕事を全うする事ができたことに、満足感で一杯でした。

60歳以上体力再生教室　村田 美智子

北は北海道、南は九州・沖縄より80チーム余りが参加し、8月4日・5日に豊田市スカイホールにて、第20回記念大会（全日本マスターズハンドボール）が盛大に行われました。

2日間ボランティアとして参加する機会をいただき、良い経験が出来ましたことに感謝しています。

選手層として男性は40歳、女性は35歳以上からの参加者です。男性では70歳代・80歳代の人もプレーに参加されていました。

ハンドボールという迫力ある競技に接し、試合展開のスピードに圧倒され、素晴らしい走りとボールコントロールの素早さを間近で見ることで、ハンドボールが「かっこいい」「すばらしい」スポーツだということを再認識しました。

高齢者はパンツの色（ゴールド・シルバー）で区別され、年齢を重ねても、「走って」「飛んで」「投げて」「笑顔で」「一生懸命で」「楽しんで」ハンドボールが人生の生き甲斐のように感じられ、素敵で羨ましく思いました。

思い起こせば、私は50年以上前に学校でやった記憶のみです。試合のお手伝いが無事に出来るのか心配でした。3人1組のグループで記録係のお手伝いです。緊張の中で試合開始の笛と共に必死にボールを目で追いながらのゲーム展開に大変でした。めまぐるしい試合で、私は味わったことのない不安感と緊張感とで呼吸困難になりそうでしたが、無事に終わり達成感がありました。良い機会をいただき有り難うございました。心に残る大変良い思い出がひとつ増えましたことをお礼申し上げます。

ハンドボールを愛している会員の皆さん！　さらに充実したハンドボール人生に向けて！　頑張ってください！

第37回（2012～13シーズン）日本

第37回（2012－13シーズン）日本ハンドボールリーグは、既に9月1日（土）から、2013年2月24日（日）までのレギュラーシーズンが開催されていますが、開幕前週の8月27日（月）午後、岸記念体育会館にて開幕記者発表が行われました。日本ハンドボールリーグ機構・家永昌樹GMの司会で始まった記者発表は、冒頭、日本ハンドボールリーグ機構・多田博会長より挨拶があり、引き続きリーグ実施要綱の説明がされました。今回の実施要綱では、ハーフタイム15分、タイムアウト3回制など直近の国際ルールでの運営となる事が報告され、又、プレーオフは2013年3月9日（土）、10日（日）の両日に行われ、男子が上位4チーム、女子は上位3チームがプレーオフ進出し、優勝を目指したトーナメントが展開されることになります。

その後、日本リーグ監督（男子9チーム、女子6チーム）の紹介と、それぞれのチーム監督から「チームスローガン」・「攻守のキープレイヤー」の報告がされました。どの選手が監督の考えるキープレイヤーなのか…キープレイヤーの活躍ぶりを是非とも、日本リーグの試合会場に足を運んで、迫力ある選手の動きを観戦しましょう。

記者発表出席者

男子		
大同特殊鋼　Phenix	監督	末松　誠
大崎電気　OSAKI OSOL	監督	岩本　真典
トヨタ車体　BRAVE KINGS	監督	野村　広明
湧永製薬　WAKUNAGA LEOLIC	監督	玉村　健次
トヨタ紡織九州　Red Tornado	監督	谷川　一寿
琉球コラソン	GM	水野　裕矢
豊田合成　Blue Falcon	監督	畠中　益喜
北陸電力　ブルーサンダー	監督	神田　友和
トヨタ自動車東日本　REGAROSSO	監督	中川　善雄
女子		
オムロン　ピンディーズ	ヘッドコーチ	黄　慶泳
北國銀行　Honey Bee	監督	荷川取　義浩
ソニーセミコンダクタ　BLUE SAKUYA	監督	小籔　憲次
広島メイプルレッズ	監督	呉　成玉
三重バイオレットアイリス	監督	緒方　嗣雄
ＨＣ名古屋	ヘッドコーチ	田中　俊行

チームスローガン

男子	
大同特殊鋼　Phenix	One for All　All for One
大崎電気　OSAKI OSOL	～継続～ CONTINUE　THINKING HANDBALL FOR THE TEAM
トヨタ車体　BRAVE KINGS	全力
湧永製薬　WAKUNAGA LEOLIC	団結
トヨタ紡織九州　Red Tornado	プロセスを大事に
琉球コラソン	一念通天
豊田合成　Blue Falcon	～No.1への挑戦～　CATCH THE DREAM
北陸電力　ブルーサンダー	不撓不屈
トヨタ自動車東日本　REGAROSSO	ONE TMEJ ONE REGAROSSO
女子	
オムロン　ピンディーズ	より強く、より美しく、オムロン
北國銀行　Honey Bee	ONE FOR ALL　ALL FOR ONE
ソニーセミコンダクタ　BLUE SAKUYA	型を守って、型を打ち破る
広島メイプルレッズ	炎の団結
三重バイオレットアイリス	勝利で咲かせよう、花菖蒲！
ＨＣ名古屋	ブレークスルー（Breakthrough）

ハンドボールリーグ開幕記者発表

女子

オムロン
ピンディーズ
ヘッドコーチ　黄　慶泳

北國銀行
Honey Bee
監督　荷川取義浩

ソニーセミコンダクタ
BLUE SAKUYA
監督　小薮憲次

広島メイプルレッズ
監督　呉　成玉

三重
バイオレットアイリス
監督　緒方嗣雄

HC 名古屋
ヘッドコーチ　田中俊行

男子

大同特殊鋼
Phenix
監督　末松　誠

大崎電気
OSAKI OSOL
監督　岩本真典

トヨタ車体
BRAVE KINGS
監督　野村広明

湧永製薬
WAKUNAGA LEOLIC
監督　玉村健次

トヨタ紡織九州
Red Tornado
監督　谷川一寿

琉球コラソン
GM　水野裕矢

豊田合成
Blue Falcon
監督　畠中益喜

北陸電力
ブルーサンダー
監督　神田友和

トヨタ自動車東日本
REGAROSSO
監督　中川善雄

日本ハンドボール
リーグ機構
会長　多田　博

日本ハンドボール
リーグ機構
GM　家永昌樹

監督より推薦の攻守キープレイヤー

女子

オムロン	：11 番 永田しおり
北國銀行	：6 番 石野実加子、10 番 後藤千渡世
ソニーセミコンダクタ	：12 番 飛田季実子、17 番 錦織　新
広島メイプルレッズ	：4 番 河田早紀、15 番 高山智恵
三重バイオレット	：12 番 毛利久美、23 番 早船愛子
HC 名古屋	：4 番 福井美樹、5 番 高橋瑛美、14 番 横井彩果

男子

大同特殊鋼	：2 番 棚原　良、13 番 加藤嵩士
大崎電気	：14 番岩永　生、15 番 夏山陽平
トヨタ車体	：3 番 石戸貴章
湧永製薬	：1 番 志水孝行、2 番 谷村遼太
トヨタ紡織九州	：5 番 松信亮平、20 番 藤山岳士
琉球コラソン	：6 番 東長濱秀作、19 番 内山藤将
豊田合成	：2 番 榊原光輝、7 番 桶谷英則
北陸電力	：10 番 小川　俊、19 番 佐々木喬也
トヨタ自動車東日本	：5 番 遠山賢治、18 番 上野承太

ヨーロッパのハンドボールLIFE

世界で活躍できる日本人が増えることを願って

フランクフルターHC
内林 絵美

渡独のきっかけ

私が初めてドイツ・ライプツィヒを訪れてから、早いものでもう10年が経ちました。大学卒業後、教員を目指していた私は、当時所属のSCかながわのチーム遠征で、ライプツィヒを訪れ、地元のチームと練習試合を行い、ブンデスリーガ1部で最多優勝の記録を持つHCライプツィヒのコーチのホルツさんに指導を受けました。

その時に受けた衝撃を、私は今でもはっきりと思い出す事ができます。練習試合に足を運んで、地元チームに熱狂的に歓声を送るファンの人達、遠く日本から来た私達にも惜しみない拍手を送ってくれました。そして、ドイツの豪快なハンドボール。今まで体験した事のないプレーでした。

そして、練習や練習試合の合間に訪れた街も、心に残り、日本に帰ってからもドイツで過ごした時間を忘れる事ができませんでした。

本当はまだ高いレベルでハンドボールを続けたかったのに、自分で限界を作って、挑戦さえしようとしなかった自分に気づき、その決断を恥じました。「ハンドボールがあんなに愛されているドイツでプレーしたい。」と、はっきりと夢の輪郭が見えた瞬間でした。

その時すでにドイツでプレーしていた植松伸之介さんの激励と、家族、友人の支え、スポーツコーディネーターの高橋さんの協力を得て、2004年、当時3部リーグに所属していたSCリーザと契約を結びました。

素晴らしい人達に囲まれて、ドイツ語を学び、ライプツィヒ大学、体育学部にも入学。2005年／2006年シーズンでは、ブンデスリーガ2部への昇格も果たしました。2008年に、ブンデスリーガ2部のBSVツヴィッカウに移籍。チーム・個人ともに、2部で安定した成績を残すとともに、ライプツィヒ大学を卒業。昨シーズンは、ツヴィッカウのジュニアチームであるBユーゲント（15～17才のカテゴリー）の監督を務め、ツヴィッカウの小学校で体育の非常勤講師としても働いていました。

徐々に選手から監督業へ移行し、将来を見据えて仕事をしていた今年の3月に、ブンデスリーガ1部のフランクフルターHCから、オファーが舞い込んできました。

ハンドボールを教えていた子供達や、チームメイトの事を思い、悩む日々が続きましたが、今までの日々を振り返り、私を支え続けてくれた人達のために、そして、一心にハンドボールに取り組んで、努力を続けてきた自分のために、前進をする決断をしました。

フランクフルターHCとは、2年契約を結びました。

秀でた才能がなくても、実績がなくても、そして何歳になっても、努力を続ければ必ず夢は叶う。これから夢を追いかける若いハンドボーラーに、勇気を与えられるように、あともう少し、選手として全力を尽くしたいと思っています。

欧州ハンドボールの情勢、流れ、世界の潮流

世界最強リーグと謳われるドイツ・ブンデスリーガですが、ここ数年深刻さを増すユーロ経済の破綻、不況の波は、確実にスポーツの世界にも影響を及ぼし、シーズン前にライセンスを放棄するチームが絶えません。

経済的にきびしい情勢は、ドイツにとどまらずヨーロッパ全体に及び、集客数記録を塗り替えたデンマークの人気チーム、コペンハーゲンが破綻した事からもうかがえます。

そういった背景を踏まえ、ヨーロッパのクラブチームは、さらにスポンサー獲得、若手育成に力を入れていく事になります。

特にドイツは今年、男女ともにオリンピック出場を逃しました。この事実を、ドイツハンドボール協会（DHB）は深刻に受け止めて、ハンドボールのドイツにおける人気スポーツとしての地位を維持するために、早くも新しい若手育成プログラムが話し合われて、近い内に実行される予定です。

少し詳しく紹介すると、ドイツ全土に今まで以上にバランス良く、ハンドボール強化ポイントを置き、才能溢れるエリート選手を早い内に見つけ、育成していきます。

強化ポイントに指定された街には、ブンデスリーガのチームがあり、若手育成のために理想的なスポーツ施設、医療施設、学生寮などが揃っています。

指導者もライセンスを持った経験豊かな人材が、DHBのコンセプトに基づき、選手を育てていきます。ジュニア世代でしっかりとエリート教育を受けた若い選手達は、ブンデスリーガのチームに所属して、トップのチームで練習をしながら、他の2部や3部のチームで試合を重ねます。

若い選手が試合経験を積める環境が、ドイツにはしっかりと根付いていて、これからはブンデスリーガ1部にも、外国人枠が適用される事になるかもしれません。

より速く、より強く、より細かな戦術を必要としている今のハンドボールにあって、ノルウェー女子の快進撃は、システム化された若手育成が導いたものではなかったでしょうか。

ロンドン最終予選から見た、日本代表再挑戦への課題

ずっと日本代表の試合を目にしていない私が、オリンピック再挑戦への課題について書く事はできません。ただ、ドイツに長く住んでいるからこそ、見える事や気付く事を、日本と他国との違いを、客観的に書きたいと思います。

第一に、先にも紹介した若手育成のシステム。

ドイツはここ数年こそ、国際大会で結果を残せていませんが、長い目で見ると、ハンドボール発祥の地に相応しい実績を残しています。

DHBが中心となって、タレントの発掘、エリート育成、そして、代表に至るまでのコンセプトが、しっかりと作られています。

子供のカテゴリーでは、将来を見据えたルールが独自に決められていて、小学生までのミニハンドボールでは、1対1のOFとDF､ボールを持たない選手の動きを学ばせるために、マンツーマンDFが推奨されています。

私が指導していたBユーゲントでさえ、選手交代はOF時にしか許されていませんでした。OF専門、DF専門の選手を作らないための工夫です。

使用ボールの年齢基準も日本とは異なり、女子では、2号ボールを使い出すのは、15才からです。ドイツの14才は、私よりも背が大きい選手がほとんどで、手も日本人と比べるとかなり大きいのに、1号ボールで練習して、試合をします。手首を柔らかく使った、ループシュートや、スピンシュートを､ヨーロッパでは早い内から習得できるのはこのためです。

再び世界のトップに返り咲くために、ドイツの若手育成コンセプトは、これからの数年間で、大きく変わるかもしれません。でも大切な事は、カテゴリーごとに勝利を最優先するのではなく、将来を見据えた環境を、指導を、子供達に与えていく事だと思っています。

日本では学校スポーツのハンドボールは、ヨーロッパの国々のようには、若手育成コンセプトを実行できないと思います。でも､日本ハンドボール協会､日本全国の指導者の方々の目標が一つになれば、改善していける点はあるのではないでしょうか。この機関誌を目にした指導者の方には、是非この機会に、「選手の10年後」を見据えた指導について考えてもらいたいと思います。

第二に、私が日本のハンドボール界に望む事は、海外でプレーする日本人選手が増えて欲しいという事です。

ブンデスリーガの選手は、本当に多国籍です。1部はもちろんの事、2部や3部でも、各国代表選手がプレーしている事がよくあります。国内のリーグのレベルが、世界トップレベルでなくても、世界大会で結果を残している東欧、南米の国々の代表選手の多くは、ドイツ、フランス、スペインなどのリーグでプレーしています。

日本代表の選手や、日本の将来を担う選手が、海外に出れば結果が出るとは、私には断言できません。日本リーグのレベルは高いですし、日本リーグの人気を保ち、さらに上げていく事も必要不可欠です。けれど、先に例に挙げた国々や、もっと身近なところで、なでしこジャパンの強さを思う時、才能溢れる若い日本人選手が、ブンデスリーガや、ヨーロッパ各国のリーグで活躍する事が、日本ハンドボール界にとって、プラスになると思えてなりません。

年間30～40試合が普通のブンデスリーガ。1点を争う試合。生活がかかっているきびしさの中での戦い。そういう世界で活躍できる日本人が増えてきて、さらに日本リーグで切磋琢磨してレベルアップを図る選手が、日本代表としてオリンピック出場を懸けて戦う日が訪れたなら、日本のハンドボーラーの夢は叶うと確信しています。

今年で13年目のブンデスリーガのシーズンを迎える植松選手。同じく7年目のブンデスリーガのシーズンを戦う田中選手。今シーズンから、デンマークに活躍の場を移した門山選手。ハンガリーでプレーする事を決意した銘苅選手。

ヨーロッパに活躍の場を移した選手達の後に続く若い選手が、これから出てくる事を願っています。

〜日本リーグ開幕、激戦期待〜

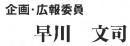
企画・広報委員
早川　文司

37回目を迎えた日本リーグが開幕して約１カ月。早くも激戦の様相を呈しています。今シーズンの男子は以前、２部に在籍していたセントラル自動車が新会社発足でトヨタ自動車東日本として復帰、９チームとなり、女子はこれまでと同じ６チームでの戦いとなっています。

プレーオフには従来通り、男子の上位４チーム、女子の上位３チームで争われますが、男女とも例年以上に激戦が予想され、初戦で大同特殊鋼が敗れたように、最終戦まで気の抜けない戦いが展開されるものと思われます。

最盛期には男女とも１、２部制で行われていましたが、経済状況の変化などで年々加盟チーム数が減り、止むを得ず1部制にして、現在にいたっています。今回のトヨタ自動車東日本の参入は、昨年の東日本大震災に遭われた人々をはじめ東北地区のスポーツ界にも勇気を与えられることだろうと期待しています。

戦力的には全日本社会人選手権の結果（10位）をみても明らかなように、戦力の差は致しかたないですが、日本代表で主将を務めた中川善雄監督のチーム強化が楽しみです。

新加入は女子も待ちこがれるところです。と言うのも、チームが増えれば当然ながら試合数は増えるし、リーグ全体のレベルアップにもつながってくることは間違いないでしょう。そうして接戦の試合、激しい星争いが続けば、ファンの話題にも上り、強化はもとより、普及・振興にもつながってくることだろうと思います。

「メダルは自分だけのものではない。競技人口の拡大のためでもある」－北京オリンピックで銀メダルを獲得したフェンシングの太田雄貴選手が口にした言葉は、まさに裾野が広がらなければ、強化も、普及もままならないことを指摘したものだったのではないでしょうか。

裾野がある程度広がらなければ、スポーツファンの関心も高まらないし、結果もついてきません。そのためにもハンドボール球界も努力を欠かすわけにはいかないことは、皆さんもよくお分かりのことでしょう。現状のままなら、オリンピック出場の夢もますます遠のいていくかもしれません。もう歯ぎしりするのは勘弁してほしいものです。

何と言ってもトップの座にある日本リーグで激闘が続くことが、その一助になることは明らかです。一戦一戦、手に汗握る試合、目まぐるしい順位争いが展開されることが、発展につながり、強化にも貢献することになります。男子は昨年の上位5チームに加え戦力アップした琉球の戦いぶりも見逃せないし、女子は4強からどこが脱落するか、激闘を楽しみにしています。

報告　平成24年度日本体育協会公認コーチ養成講習会

指導委員長　笹倉清則

平成24年度日本体育協会公認コーチ養成講習会を、6月19日から24日までナショナルトレーニングセンターにおいて開催いたしました。

今回も、北は北海道から南は沖縄まで、日本リーグ、強化、指導、NTS、審判各委員会から、もしくは学連など各連盟、または各都道府県からの推薦による31名の参加者がありました。

講習会では、コーチのあり方からチーム作りのためのゲーム構想、そして戦術的な組み立て等を中心とした講義、そして上級コーチ以上の講師による実技指導、そしてこの講義、実技を基礎としたこの講習会の中心となる指導実習で構成された5泊6日60時間の講習内容でした。

講義では、前指導委員長の大西講師による「コーチの役割」から始まり、笹倉講師（指導委員長・日本女子体育大学）による、いろいろな球技の発生からハンドボールを学ぶ「ハンドボールの歴史」、戦術の理解を中心とした「コーチ論」を学び、コーチの指導の基礎を理解することを目的としました。２日目以降実際の指導に必要な理論として、亀井講師（日本女子体育大学）による「ハンドボールの生理学」、また指導現場に必要な選手や指導者が共通理解すべき「こつ」と「かん」をテーマとする会田講師（筑波大学）による講義、そして「世界の戦術の変遷」を理解し、最後にゲーム並びにゲームの評価を中心とした講義を配置いたしました。

実技では、速攻の土井講師（大阪教育大学）の「速攻トレーニング」のなかでいろいろな指導法の違いや考え方を学び、田中講師（HC名古屋）による「防御の指導法」、そして藤本講師（筑波大学）による「攻撃の指導法」を受け、一つの構想による指導方法の基礎から応用を意図しておりました。

そして、この講習会のメインである指導実習では、今回の参加者をその指導対象（年齢、男女等）を参考にして、いろいろな指導者をできるだけバランス良く５つのグループに分け、こちらから提示した６つの課題の中から重複することなく各グループ課題を選びました。講習会の中日に紙面による指導法の提示、そこで各班並びに講師陣で検討し、修正を行い最終的にデモンストレーター（今回は浦和学院高等学校男子の協力）に実際にその課題のトレーニングを行い、その評価をするものでありました。

以上のような内容で講習会を展開いたしました。受講生は毎日の講習のほか宿舎に戻っても指導案の作成など、毎日遅くまで精神的にも肉体的にも大変負担のある講習会となりましたが、その甲斐あって最終的な指導実習の発表も大変良いものとなり、スタッフ一同その成果を喜んでおります。

この講習会の目的は、指導の基本的な考え方の整理し、今後の指導に役立てること、そして指導者としての意識を変化させることです。また指導者同士のコミュニケーションを高め、今後各カテゴリーやそれぞれのレベルでの指導者としての協力の仕方、並びに今度は参加者が資格を取ったあと各母体での講師としての役割を持つという目的を十分に達成した講習会となりました。

最終日に書いていただいた参加者のコメントからも、その意図を十分に感じ取っていただけたものと実感しております。

■平成24年受講者

谷川一寿（佐賀・トヨタ紡織九州）
松村昌幸（広島・湧永製薬）
末松　誠（愛知・大同特殊鋼）
山下純平（愛知・愛知教育大学）
加藤茂樹（宮城・宮城県仙台第一高等学校）
坂元智子（岡山・環太平洋大学）
佐藤　晃（京都・立命館大学）
近藤啓司（愛媛・県立松山東高等学校）
谷藤　康（徳島・県立池田高等学校）
鍋島圭太（徳島・鳴門教育大学大学院）
河原　亮（福岡・福岡市立多々良中央中学校）
平田　彰（大阪・大阪商業大学堺高等学校）
松井　翼（群馬・富岡東高等学校）
香川将之（愛知・トヨタ車体）
吉田耕平（埼玉・大崎OSOL）
大渡達也（長崎・県立長崎工業高校）
甲斐新一朗（長崎・県立佐世保西高校）
松下達喜（長崎・県立鹿町工業高校）
照屋喜隆（沖縄・学校法人興南学園）
加藤晋太朗（神奈川・キヤノン）
齊藤祥夫（北海道・北海道函館工業高等学校）
島崎百恵（北海道・東海大学）
高橋豊樹（愛知・中京大学）
藤戸量介（愛知・中京大学）
田中良政（沖縄・琉球大学）
小川至門（岩手・不来方高等学校）
間瀬哲章（愛知・愛知県立津島東高等学校）
佐藤寛敏（愛知・大同大学大同高等学校）
奥山誠恒（鹿児島・鹿児島県立大島高等学校）
徳留鑑一（鹿児島・鹿児島県立志布志高等学校）
大城　章（東京・早稲田大学）

第15回ハンドボール研究集会 ―四国・香川大会―

ゴール型教材としてのハンドボール―その5―

学校体育ハンドボール検討専門委員会　小岩井 浩明

■7月30日（月）

【講演】

「豊かなスポーツライフを目指した学校体育の役割と期待」

国立教育政策所研究教育課程研究センター研究開発部
教育課程調査官（併）文部科学省スポーツ・青少年局
参事官付教科調査官　白幡和也

「今、世間はオリンピックで盛り上がっています。4年後のオリンピックへはハンドボールも参加できますように！　そして、学校体育の充実がスポーツ基本法の理念の実現に近づくことであり、その学校の授業をハンドボール協会がサポートしてくれていることに感謝いたします。」との言葉から講演会が始まりました。

『豊かなスポーツライフ』につなげるということで、白幡先生が甲子園で始球式を行う大臣にボールの投げ方を指導したお話を例に挙げ、できないことができるようになると楽しくなってくる。すると自らもっと練習をしたくなる。そしてまた上達する。このような経験が大切であること。また、指導者が楽しいと思わないものを子どもに楽しくなんか教えられないということから、運動が苦手だという教員を集めて、プロ野球・サッカー協会・ラグビー協会と協力して講習会を行ったことを紹介され、ハンドボール協会へのヒントをいただきました。

【研究・実践報告】

「ゴール型ゲーム様相の発展に対応したハンドボール授業実践」　宮崎　彰（香川大学教育学部附属坂出小学校）

「状況を判断する力を高めることで動きを引き出すハンドボールの授業」
高野義友（新潟市立中野山小学校）

「HAZENA・Ⅲ―子どもの動きを引き出すゴール型教材―」
信原悦治（岡山市立馬屋下小学校）

「ハンドボールを校技として導入しての実践報告―小学校スキルアップノートの作成に向けて―」
石崎　慶（青葉台初等学部）

それぞれの実践者が、自分たちの目の前にいる子どもたちの実態から、どんな力をつけることが大切なのかをよみとり、ハンドボールの魅力を残したまま簡易化したゲームによって、確かな力をつける授業作りに取り組んだ実践を報告してくれました。

「マイクロハンドボールとヨーロッパの指導教材の入手について」村松　誠（駒沢大学）

ミニハンドボールを簡易化したゲームなどをEHFのWebサイトから入手する方法が紹介されました。手順は次の通りです。

www.eurohandball.com へアクセス
HANDBALLACTIVITIES → expertcorner → TeachingVideo
ここからいくつかの動画を見ることができます。

【実技研修】

「ゲームでの動き方をどう学ばせるか」

有明教育芸術短期大学子ども教育学科教授　藤井喜一

「シュートボール」と「アルティメット」が紹介されました。

「シュートボール」は、低学年の子どもたちに攻防入り乱れたゲームはできないのでは？と言われていた時代に、そんなことはないんじゃないかと挑戦的な意味から考え出したゲームだそうです。子どもたちはその学年なりに考え、課題が生まれ、動きを身につけていこうとします。「アルティメット」はボールの代わりにディスクを使います。ディスクのスピードが遅いため動き方を学習させるためには良いのではないかと紹介されました。参加された先生方も笑顔いっぱい元気いっぱい動き回っていました。

最後は、ハンドボールを愛する方々によりハンドボールが始まり、見ている人にも楽しい実技研修となりました。

■7月31日（火）

【授業提案・授業検討会】

「速攻を中心課題としたハンドボールゲーム（3年）」

山西達也（香川大学教育学部附属高松小学校）

子どもは、『どんなパスが有効か』『どの位置にいればチャンスか』ということを意識して活動に取り組んでいました。

藤井喜一氏からも、「ゴールを台形にしたことが良かったのか、振り返りをさせる活動を多くさせたのが良かったのか、空間認識（空いたスペース）を意識できている子どもたちであった。ここまで育っている子どもたちにそれほど知識面での追求をさせる必要はなく、もっとパフォーマンスさせても良いかもしれない。ハンドリング技術さえつけば、もっとすばらしいゲームが展開されたのではないか」という感想がありました。

山西先生たちの実践が、確実に子どもたちの力を高めていることが実証された授業でした。授業検討会では、自分が授業をするとしたらという立場からたくさんの質問が出されました。参観された先生方の「知りたい」「やってみたい」という思いが伝わる会になりました。

【講義】

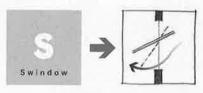
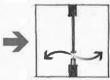
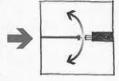
「ハンドボール指導の面白さ」

筑波大学名誉教授　大西武三

ご退職後もハンドボールにかける情熱は衰えず、自ら高校へ出向き部活指導をさせてくれないか、小学校では授業をさせてくれないかと校長先生に申し出て、子どもたちの指導にあたっているそうです。これから指導にあたる先生方には、ぜひ文化としてのハンドボールを知ってもらいたいと願い、シュートのバリエーションなどをまとめたDVDを作成し、参加者に配布していただきました。

ハンドボールの本質は、ゴールにシュートを入れること。そして、楽しむためにはゲームをすること。「まずはパス練習、次はキャッチの練習、走る練習、フォーメーション練習、さぁ試合をしましょう」という積算式指導ではなく、ウォーミングアップ自体をシュート技術が高まるようなものにして、すぐにゲームをやってみるといった減算的指導で行うのが良いのではないかという提案をいただきました。ハンドボールとはどんなものか、教材研究はしっかりやってもらいたいが、あまり難しく考えず『まぁ、やってみよう！』という勇気づけられるお言葉をいただきました。

《まとめ》

今回の研究会には多くの学生さんが参加されていました。これから指導者という立場になられる方々に参加していただけたことは大きな収穫であったと思います。ハンドボールが、ゴール型ゲームの教材としてはとても有効であることが改めて確認できる研究会となりました。今研究会の開催にあたり、ご協力いただいた香川大学、香川県ハンドボール協会、講師の先生方、授業校の先生方、すべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

頂点をめざす すべてのアスリートへ。

2チャンネル同時出力でさらに強力サポート。

原寸大：W45mm×D17mm×H70mm

AT-mini Ⅱ

管理医療機器（特定保守管理医療機器）<クラスⅡ>
低周波治療器（JMDNコード：35372000）
ATミニⅡ　医療機器認証番号 224AABZX00052000

もっと速く、もっと強く、昨日の自分を超えるために常に限界の先をめざすアスリートたち。
2チャンネル出力になって進化したポータブル低周波治療器「AT-miniⅡ」は
損傷した筋肉により効果的に働きかけ、場所を選ばずにいつでも自分の体をケアすることができます。
世界のスポーツの舞台を支えるITOの「AT-miniⅡ」が
極限で戦うアスリートのコンディショニングをさらに強力サポートします。

※医科向けの医療機器のため、専門家の指導のもとに使用してください

60g 超軽量

本体重量わずか60g（充電池含む）、サイズも極小。ITOの技術が、今までになかった超軽量・コンパクトな低周波治療器を実現しました。

12時間 連続使用

リチウムイオンバッテリーにより、最大12時間の連続使用が可能。この小ささで、スタミナも一流です。

3つの治療モード COMB / CARE / PAIN 鎮痛・治癒

● COMB〈鎮痛+治癒〉 Allタイムケア
トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的な、鎮痛と治癒を組み合わせたケアモードです。

● CARE〈治癒〉 OFFタイムケア
移動中や休憩中などの体を休めている時にも、トレーニングで損傷した筋組織の治癒を促進します。

● PAIN〈鎮痛〉 ONタイムケア
トレーニング中など、現場で起こった捻挫や筋肉・関節の痛みといった急なアクシデントに有効です。

審判部報告

ラストチャンスに挑んだA級審査

佐賀県ハンドボール協会　亀川政文

7月13日から15日まで福島県本宮市総合体育館ほか3会場で、A級審査会を兼ねた「第32回全国クラブ選手権東地区大会」が開催されました。そこで私は無謀にも定年ギリギリの49歳でA級審査にチャレンジしました。

私が審判活動を始めたのは今から8年前、長女の試合を見学に行った会場で、高校時代の牟田先輩（現・佐賀農業高校ハンドボール部顧問）に「審判を手伝ってくれないか」と言われたのがきっかけです。最初は失敗の連続で、うまくできませんでしたが、「どうせやるなら上手くなりたい、決勝を担当したい」、そんな思いが強くなり、積極的に多くの試合を担当し3年前にB級審査に合格しました。

自分の歳を考えるとA級審査を受験するかどうか迷いましたが、県外の大先輩から「年齢や合否にこだわらず経験をしてみなさい」とアドバイスをいただき、受験することを決意しました。

そして、7月のA級審査会当日、開講式に続き筆記試験が行われました。筆記テストは問題集を繰り返し勉強していたので、不安はありませんでした。2日目は実技審査がありました。私とペアの権藤氏は担当する試合の前に、いつものように試合のテーマについて話し合いました。「正しいディフェンスの評価」と「スピーディーなハンドボールを重視した判定をすること」の2つをテーマに決め、試合に臨みました。審査試合ということもあり、緊張して笛のタイミングが遅れたためにスピーディーな流れを切ってしまったことや、段階的罰則の基準がぶれてしまったことなど、失敗はあったと思います。しかし基本動作をしっかりし、最後まで一生懸命走って判定をすることを意識して、審査試合を終えることができました。

その後、最後のスケジュールである体力テストが行われました。今年から昨年より2本多い40m×10本（1本が20mの往復で制限時間が平均約9秒）が合格ラインになりました。体力テストのために走り込みをしたのですが、スタミナが足りず不安でした。しかし同じ受験生の応援の声も力になり必死で走りきりました。体力テストの終了後、越田審査指導委員長より「体力テストは全員合格」との言葉をいただいたときは、それまでがとてもきつかっただけに涙が出るほど嬉しかったです。

後日、私と権藤氏は合格通知をいただくことができました。私が49歳で受験するにあたり強い思いとパワーが必要でしたが、合格通知をいただけたのは、これまでご指導いただいた皆様のおかげだと感謝しております。定年まで残り少ない遅咲きの審判員ですが、謙虚な姿勢を大切に頑張っていきますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

写真右が亀川政文氏

スコアールーム

第25回全国小学生大会

開催期日：2012年8月2日（木）～5日（日）
会　　場：京都府・京田辺市中央体育館ほか

【男子】

▼予選Aブロック
笹川クラブ 30－13 姶良クラブ
桃園小学校 29－6 南林間クラブ
桃園小学校 32－10 笹川クラブ
姶良クラブ 17－17 南林間クラブ
【順位】①桃園小学校ハンドボールクラブ（京都）②笹川ハンドボールクラブ（三重）③姶良スポーツクラブ（鹿児島）④南林間ハンドボールクラブ（神奈川）

▼予選Bブロック
さいたま市クラブ 19－3 東根スポ少
さいたま市クラブ 20－13 香川町スポ少
香川町スポ少 18－16 東根スポ少
【順位】①さいたま市ハンドボールクラブ（埼玉）②香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブくん（香川）③東根ハンドボールスポーツ少年団（山形）

▼予選Cブロック
神森小学校 27－2 LHC静岡
総社クラブ 23－12 LHC静岡
神森小学校 25－9 総社クラブ
【順位】①神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄）②総社クラブジュニア（岡山）③LHC静岡ハンドボールスクール（静岡）

▼予選Dブロック
貝塚バーディーズ 22－16 羽島クラブ
下郡スポ少 38－7 野木J・H・C
下郡スポ少 23－13 貝塚バーディーズ
羽島クラブ 23－9 野木J・H・C
【順位】①下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分）②貝塚バーディーズ（大阪）③羽島ハンドボールクラブ（岐阜）④野木J・H・Cルーキーズ（栃木）

▼予選Eブロック
平針南クラブ 19－11 高盛クラブ
愛媛ジュニア 16－11 一つ輪HBC
平針南クラブ 20－14 愛媛ジュニア
高盛クラブ 17－8 一つ輪HBC
【順位】①平針南ハンドボールクラブ（愛知）②愛媛ジュニアーズ（愛媛）③高盛ハンドボールクラブ（北海道）④一つ輪HBC（奈良）

▼予選Fブロック
北陸電力ジュニア 27－10 Jr.レイカーズ
水海道クラブ 21－6 小林スポ少
水海道クラブ 17－12 北陸電力ジュニア
小林スポ少 24－5 Jr.レイカーズ
【順位】①スポーツ少年団水海道ハンドボールクラブ（茨城）②北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井）③小林ハンドボールスポーツ少年団（宮崎）④Jr.レイカーズ（滋賀）

▼予選Gブロック
松井ヶ丘小学校 14－11 富岡イーグルス
松井ヶ丘小学校 15－8 春日クラブ
富岡イーグルス 19－13 春日クラブ
【順位】①松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（開催地）②富岡イーグルス（群馬）③春日ハンドボールクラブ（長崎）

▼予選Hブロック
小松ジュニア 18－14 LITTLE GUTS
小松ジュニア 20－10 流山クラブ
流山クラブ 18－12 LITTLE GUTS
【順位】①小松ジュニアハンドボールクラブ（石川）②流山ハンドボールクラブ（千葉）③LITTLE GUTS（山口）

▼予選Ｉブロック
窪スポ少 24－13 塩山スポ少
窪スポ少 29－1 高知JHC
塩山スポ少 25－5 高知JHC
【順位】①窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山）②塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨）③高知JHC（高知）

▼予選Jブロック
玉名町小学校 11－9 安芸高田クラブ
安芸高田クラブ 29－5 和歌山ハンド教室
玉名町小学校 23－9 和歌山ハンド教室
【順位】①玉名町小学校（熊本）②安芸高田ハンドボールクラブ（広島）③和歌山ハンドボール教室（和歌山）

▼予選Kブロック
神戸ラスカルズ 15－12 東久留米クラブ
かすやブルーガッツ 19－8 境港マリンバード
神戸ラスカルズ 18－12 かすやブルーガッツ
東久留米クラブ 29－12 境港マリンバード
【順位】①神戸ラスカルズ（兵庫）②かすやブルーガッツ（福岡）③東久留米ハンドボールクラブ（東京）④境港マリンバード（鳥取）

▼1回戦
松井ヶ丘小学校 9－8 小松ジュニア
神森小学校 18－14 さいたま市クラブ
窪スポーツ少年団 15－14 玉名町小学校

▼2回戦
神森小学校 23－17 桃園小学校
下郡スポーツ少年団 22－11 平針南クラブ
松井ヶ丘小学校 12－11 水海道クラブ
窪スポーツ少年団 27－18 神戸ラスカルズ

▼準決勝
下郡スポーツ少年団 15－14 神森小学校
窪スポーツ少年団 18－12 松井ヶ丘小学校

▼3位決定戦
神森小学校 17－11 松井ヶ丘小学校

▼決勝
下郡スポーツ少年団 12－11 窪スポーツ少年団

【女子】

▼予選aブロック
高山クラブ 7－5 倉敷ジュニア
港川クラブ 25－1 岩出教室
港川クラブ 12－1 高山クラブ
倉敷ジュニア 21－5 岩出教室
【順位】①港川ハンドボールクラブ（沖縄）②高山ミニハンドボールクラブ（岐阜）③倉敷ジュニアハンドボールクラブ（岡山）④岩出ハンドボール教室（和歌山）

▼予選bブロック
宇土小学校 9－4 三郷クラブ
三郷クラブ 18－11 笹川クラブ
宇土小学校 26－10 笹川クラブ
【順位】①宇土小学校（熊本）②三郷ハンドボールクラブ（埼玉）③笹川ハンドボールクラブ（三重）

▼予選cブロック
富岡ラビッツ 20－9 香川町スポ少
田辺東小学校 16－5 富岡ラビッツ
田辺東小学校 23－9 香川町スポ少
【順位】①田辺東小学校ハンドボールクラブ（開催地）②富岡ラビッツ（群馬）③香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブちゃん（香川）

▼予選dブロック
三佐スポーツ少年団 23－5 東根スポーツ少年団
東久留米クラブ 12－5 明石ジュニア
東久留米クラブ 9－7 三佐スポーツ少年団
東根スポーツ少年団 11－10 明石ジュニア
【順位】①東久留米ハンドボールクラブ（東京）②三佐ハンドボールスポーツ少年団（大分）③東根ハンドボールスポーツ少年団（山形）④明石ジュニア（兵庫）

▼予選eブロック
平針南クラブ 20－8 小松ジュニア
LITTLE GUTS 18－3 かすや
平針南クラブ 14－8 LITTLE GUTS
小松ジュニア 10－9 かすや
【順位】①平針南ハンドボールクラブ（愛知）②LITTLE GUTS（山口）③小松ジュニアハンドボールクラブ（石川）④かすやブルーガッツ（福岡）

▼予選fブロック
窪スポーツ少年団 9－6 春日クラブ
横浜ジュニア 8－6 真弓クラブ
窪スポーツ少年団 19－6 横浜ジュニア
春日クラブ 19－5 真弓クラブ
【順位】①窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山）②横浜ジュニアハンドボールクラブ（神奈川）③春日ハンドボールクラブ（長崎）④真弓クラブ（奈良）

▼予選gブロック
北陸電力ジュニア 24－9 愛媛ジュニアーズ
守谷クラブ 22－13 三松小スポ少
北陸電力ジュニア 16－11 守谷クラブ
三松小スポ少 20－14 愛媛ジュニアーズ
【順位】①北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井）②スポーツ少年団守谷クラブ（茨城）③三松小ハンドボールスポーツ少年団（宮崎）④愛媛ジュニアーズ（愛媛）

▼予選hブロック
日吉台バード 14－13 大浜キッズ
高盛クラブ 11－5 境港マリンバード
日吉台バード 15－10 高盛クラブ
大浜キッズ 19－11 境港マリンバード
【順位】①日吉台バード（千葉）②高盛ハンドボールクラブ（北海道）③大浜キッズ（大阪）④境港マリンバード（鳥取）

▼予選iブロック
山梨市スポーツ少年団 6－4 安芸高田クラブ
松井ヶ丘小学校 18－8 姶良クラブ
松井ヶ丘小学校 11－5 山梨市スポーツ少年団
安芸高田クラブ 12－9 姶良クラブ
【順位】①松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（京都）②山梨市ハンドボールスポーツ少年団（山梨）③安芸高田ハンドボールクラブ（広島）④姶良スポーツクラブ（鹿児島）

▼1回戦
田辺東小学校 14－5 宇土小学校

▼2回戦
港川クラブ 15－13 田辺東小学校
平針南クラブ 19－6 東久留米クラブ
北陸電力ジュニア 25－10 窪スポーツ少年団
松井ヶ丘小学校 18－5 日吉台バード

▼準決勝
港川クラブ 15－14 平針南クラブ
北陸電力ジュニア 9－8 松井ヶ丘小学校

▼3位決定戦
平針南クラブ 16－4 松井ヶ丘小学校

▼決勝
北陸電力ジュニア 15－14 港川クラブ

第19回全日本マスターズ大会

開催期日：2012年8月3日（金）～5日（日）
会　　場：愛知県・豊田市総合体育館ほか

【男子交流型】

■あブロック
WAKUNAGA 14－12 葵クラブ
WAKUNAGA 14－9 海自桜錨会B
WAKUNAGA 8－7 生駒オークス
生駒オークス 16－11 葵クラブ
生駒オークス 18－7 海自桜錨会B
葵クラブ 24－5 海自桜錨会B

■いブロック
鉄球会 14－8 46G会
鉄球会 13－10 市工芸クラブ
鉄球会 18－9 横浜平沼マスターズ
46G会 13－7 市工芸クラブ
46G会 12－12 横浜平沼マスターズ
横浜平沼マスターズ 20－12 市工芸クラブ

■うブロック
兵庫選抜 16－9 豊橋マスターズ
兵庫選抜 23－9 東京都社会人連盟
兵庫選抜 18－13 小金クラブ
小金クラブ 23－14 豊橋マスターズ
小金クラブ 18－7 東京都社会人連盟
東京都社会人連盟 14－11 豊橋マスターズ

■えブロック
Team NEXT 16－6 北陸シャイナーズ
Team NEXT 12－8 蔵前・如水会

Team NEXT	14－12	中京大1969
蔵前・如水会	10－7	北陸シャイナーズ
蔵前・如水会	13－9	中京大1969
中京大1969	21－6	北陸シャイナーズ

■おブロック

㈱三景	19－7	SINCE2008
㈱三景	19－14	神楽坂シニア
㈱三景	21－8	海自桜舗会A
神楽坂シニア	13－6	SINCE2008
神楽坂シニア	14－13	海自桜舗会A
海自桜舗会A	12－7	SINCE2008

■かブロック

愛知コモンズ	15－7	岐阜MHC(A)
愛知コモンズ	19－11	福岡クラブ
岐阜MHC(A)	14－11	LBCアルバトロス
岐阜MHC(A)	17－14	福岡クラブ
LBCアルバトロス	16－12	愛知コモンズ
福岡クラブ	13－8	LBCアルバトロス

■きブロック

HC名古屋ATF・B	14－10	オールド愛媛
HC名古屋ATF・B	19－10	松門会
HC名古屋ATF・B	12－10	拝島ブルーウッド
拝島ブルーウッド	14－10	オールド愛媛
拝島ブルーウッド	18－12	松門会
オールド愛媛	15－13	松門会

■くブロック

オークスクラブ	18－12	天王寺高校マスターズ
オークスクラブ	15－5	摂津倶楽部－A
オークスクラブ	12－9	北陸OBマスターズ
北陸OBマスターズ	14－11	摂津倶楽部－A
北陸OBマスターズ	12－11	天王寺高校マスターズ
天王寺高校マスターズ	19－7	摂津倶楽部－A

■けブロック

中京オールスターズ	22－9	岐阜MHC(B)
中京オールスターズ	15－4	駒澤クラブ
中京オールスターズ	13－8	川崎ハンドボールマスターズ
川崎ハンドボールマスターズ	18－13	岐阜MHC(B)
川崎ハンドボールマスターズ	15－5	駒澤クラブ
岐阜MHC(B)	15－14	駒澤クラブ

■こブロック

HCみやびマスターズ	21－8	HC名古屋ATF・A
HCみやびマスターズ	14－2	秋桜柏
HCみやびマスターズ	19－4	山口選抜
山口選抜	14－5	HC名古屋ATF・A
山口選抜	12－8	秋桜柏
秋桜柏	12－8	HC名古屋ATF・A

【女子交流型】

■さブロック

フェニーチェ	11－10	武蔵野クラブ
フェニーチェ	12－9	BABA'S
フェニーチェ	10－6	F・J・C
BABA'S	9－4	武蔵野クラブ
BABA'S	11－7	F・J・C
F・J・C	10－6	武蔵野クラブ

■しブロック

モッピークラブ	17－6	HC名古屋中部ドリームズ(A)
モッピークラブ	12－10	瀬戸内レディース
モッピークラブ	15－13	生駒オークスレディース
生駒オークスレディース	9－5	瀬戸内レディース
生駒オークスレディース	6－3	HC名古屋中部ドリームズ(A)
瀬戸内レディース	9－2	HC名古屋中部ドリームズ(A)

■すブロック

HC名古屋中部ドリームズ(B)	9－8	摂津倶楽部－K
HC名古屋中部ドリームズ(B)	11－6	スマイルGifu
摂津倶楽部－K	9－4	スマイルGifu
摂津倶楽部－K	12－10	徳山クラブANE
徳山クラブANE	14－8	スマイルGifu
徳山クラブANE	10－8	HC名古屋中部ドリームズ(B)

【男子順位型】

《青グループ》

▼1回戦

待兼シニア	12－8	HC群馬サファリ

▼2回戦

下松アダルツ	15－12	待兼シニア
オールドフェイス	15－10	安威川クラブ
チーム大阪	13－8	AZZURO(アズーロ)
GG'S(ジジーズ)	22－8	徳山クラブマスターズ

▼準決勝

下松アダルツ	24－9	オールドフェイス
GG'S(ジジーズ)	15－15	チーム大阪

▼3位決定戦

チーム大阪	18－12	オールドフェイス

▼決勝

下松アダルツ	14－12	GG'S(ジジーズ)

《赤グループ》

▼1回戦

小松オールウェイズ	9－7	Seven Stars

▼2回戦

蒲郡クラブ	15－14	小松オールウェイズ
静岡マスターズ	22－9	U－60スペイン選抜
Tab Club	13－11	G・G北海道
神楽坂フェニックス	20－17	西笹川クラブ

▼敗者戦

HC群馬サファリ	20－11	安威川クラブ
Seven Stars	18－16	U－60スペイン選抜
徳山クラブマスターズ	15－6	AZZURO(アズーロ)
G・G北海道	22－14	西笹川クラブ
待兼シニア	12－11	小松オールウェイズ
HC群馬サファリ	12－8	Seven Stars
小松オールウェイズ	19－5	安威川クラブ
待兼シニア	12－11	U－60スペイン選抜
AZZURO(アズーロ)	12－11	西笹川クラブ
G・G北海道	25－10	徳山クラブマスターズ

▼準決勝

蒲郡クラブ	25－13	静岡マスターズ
Tab Club	17－11	神楽坂フェニックス

▼3位決定戦

静岡マスターズ	14－9	神楽坂フェニックス

▼決勝

Tab Club	13－8	蒲郡クラブ

【女子順位決定型】

▼1回戦うさぎ

御座姐(ゴザネエ)	13－9	マミーズ
小松クラブ	13－12	かよちゃんず
かよちゃんず	15－6	マミーズ

▼1回戦ねこ

MMCM	14－9	風見鶏ファミリー
富山エンジェルス	15－12	NEWフェイス
風見鶏ファミリー	11－6	NEWフェイス

▼7－8位決定試合

NEWフェイス	15－5	マミーズ

▼5－6位決定試合

かよちゃんず	9－7	風見鶏ファミリー

▼準決勝

御座姐(ゴザネエ)	14－9	小松クラブ
MMCM	13－13	富山エンジェルス

▼3位決定戦

富山エンジェルス	14－11	小松クラブ

▼決勝戦

御座姐(ゴザネエ)	11－8	MMCM

第17回ジャパンオープントーナメント

開催期日：2012年8月10日(金)～13日(月)
会　場：東京都・墨田区総合体育館ほか

【男　子】

▼1回戦

Honda(三重)	24－16	トクヤマ(山口)
HC和歌山(和歌山)	27－26	北送会(長崎)
渡辺組(神奈川)	29－16	Y.S.C(秋田)
チーム群馬(群馬)	39－31	北志クラブ(福井)
徳山クラブ(山口)	34－30	甲府クラブ(山梨)
FSTO(東京)	33－32	金沢市役所(石川)
EHC(愛媛)	33－21	八光自動車工業(大阪)
HC岐阜(岐阜)	27－23	HC岩手(岩手)
HC岡山(岡山)	32－28	熊本教員(熊本)
大同クラブ(愛知)	32－18	埼玉教員(埼玉)
FST(東京)	29－21	山形新球会(山形)
洛北クラブ(京都)	36－21	FHC(福岡)
FOG(千葉)	37－26	香川クラブ(香川)
スワロークラブ(兵庫)	31－26	宮城クラブ(宮城)
氷見クラブ(富山)	39－18	清商クラブ(静岡)
長崎社中(長崎)	40－22	つくば学園(茨城)

▼2回戦

Honda	28－16	HC和歌山
チーム群馬	37－30	渡辺組
FSTO	25－24	徳山クラブ
HC岐阜	25－20	EHC
HC岡山	24－21	大同クラブ
FST	29－24	洛北クラブ
FOG	38－21	スワロークラブ
長崎社中	31－23	氷見クラブ

▼準々決勝

Honda	23－21	チーム群馬
HC岐阜	33－15	FSTO
FST	31－26	HC岡山
長崎社中	27－20	FOG

▼準決勝

Honda	20（9－6、11－6）12	HC岐阜
長崎社中	33（15－9、18－14）23	FST

▼3位決定戦

HC岐阜	25（13－12、12－8）20	FST

▼決　勝

Honda	23（13－8、10－12）20	長崎社中

【女　子】

▼1回戦

香川銀行T・H(香川)	29－19	ninfa・kagoshima(鹿児島)
野辺地クラブ(青森)	23－18	かぶら女子(群馬)
JJ GANG(福井)	30－22	梅の家(東京)
京都クラブ(京都)	26－22	シャトレーゼHC(山梨)
徳山クラブ(山口)	31－26	小松クラブ女子(石川)
Layzy's(埼玉)	24－22	那覇西クラブ(沖縄)
GET"S(兵庫)	35－18	HC東京VENUS(東京)
HC高山(岐阜)	39－15	白梅三英美会(岩手)

▼準々決勝

香川銀行T・H	40－18	野辺地クラブ
京都クラブ	22－21	JJ GANG
徳山クラブ	28－18	Layzy's
HC高山	33－13	GET"S

▼準決勝

香川銀行T・H	39（23－6、16－7）13	京都クラブ
HC高山	32（13－8、19－9）17	徳山クラブ

▼3位決定戦

徳山クラブ	23（11－10、12－8）18	京都クラブ

▼決勝戦

香川銀行T・H	24（10－7、14－11）18	HC高山

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【宮　城】大河原浩気【埼　玉】松本隆栄、岡部克則、西山逸成、宇賀神奈央【東　京】鈴木明美、三善信明、佐藤佳子、野島康嗣【山　梨】栗原富貴子【愛　知】小林美夏、笹野邦雄、山下悟史、西口誠一郎、西口貴子、金川康夫【岐　阜】中島明美【大　阪】望月滋乃、舟崎智芳、久保幸子、白鳥貴子【兵　庫】柿木國夫【和歌山】大橋吉次【広　島】両徳良樹【佐　賀】久保田秀光【熊　本】葦原大三【鹿児島】蔵元恵子

【10月の行事予定】

【会　議】
10月6日(木)　全国理事長会（岐阜県）

【大　会】
10月5日(金)〜9日(火)
第67回国民体育大会
（岐阜県・高山市、飛騨市、下呂市）

※お詫びと訂正
前号（2012年8・9月合併号）36ページに掲載されました「もくじ」で、下記の誤りがございました。お詫びして訂正させて頂きます。「全国クラブ選手権大会」の「西地区大会」と「東地区大会」の表記が逆になっておりました。また「西地区大会女子優勝：レキオクラブ・東江功子」さんとすべきところ、東地区女子優勝チームの名前が入ってしまいました。お詫び申し上げます。

HANDBALL CONTENTS Oct.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第五三〇号

平成二十四年九月二十六日印刷
平成二十四年十月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円